

**平成30年度 日独共同大学院プログラム
事後評価資料**

1. 概要

領域	数物系科学	分科	数学
		細目	数学解析
プロジェクト名	(和文) 流体数学 (英文) Mathematical Fluid Dynamics		
実施期間 (延長期間を含む)	平成26年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日 (48か月)		
日本側実施機関名	早稲田大学		
コーディネーター 所属・職・氏名	基幹理工学研究科・教授・小園英雄		
構成員数	教員等 25名、 学生 27名		
ドイツ側実施機関名	ダルムシュタット工科大学		
コーディネーター 所属・職・氏名	Department of Mathematics・Professor・Matthias HIEBER		
構成員数	教員等 22名、 学生 18名		

2. 目標

全期間を通じたプロジェクト実施目標とその達成度について記載してください。(2頁以内)

○全期間を通じたプロジェクト実施目標

1 教育研究の目標: 調和解析学による非線形偏微分方程式の解の漸近展開の方法により、大規模な有限計算の極限状態を予測可能とし、乱流理論や乱流縮約モデルの構築に寄与する。本事業の流体数学の現代的手法が、社会的関心の高いさまざまな流動現象の解明、およびその予測・予測信頼性向上に貢献することを目標とする。

2 若手研究者育成の目標: 流体数学の研究を実践し、広く理工学へその応用を志す先端的科学者（フロンティア・サイエンティスト）を養成することを目標とする。本共同教育プログラムで目指す若手研究者の人材像は、

- ①理工学の幅広い理解力とそれを表現できる能力（広域的学際性）
- ②流体数学の基礎学力を背景に、それを広く諸科学に展開できる能力（実践的研究能力）
- ③国内外への情報発信能力と国際的リーダーシップの発揮（発信能力）

である。

3 先進的な教育課程の展開目標: 学位審査体制においては、ドイツ側教員が副査を務めることが出来る制度の確立を目指す。またプログラム終了時においては、Darmstadt 工科大学と早稲田大学でジョイント・ディグリー制度の導入を目標とする。

○目標に対する達成度

- 目標は想定以上に達成された。
- 目標は想定どおり達成された。
- 目標はある程度達成された。
- 目標はほとんど達成されなかった。

【理由】

1 教育研究の目標の達成度

本教育研究は、数学解析学と流体力学の連携によって推進した。数学解析学の教育研究においては、非線形偏微分方程式の手法、特に調和解析学を用いてナビエ・ストークス方程式および簡素化された方程式の解の性質を、数学的厳密理論および数値実験双方の観点から考察し成果を得た。領域のサイズの影響やエネルギー減衰といった数値計算では扱えない無限大や極限操作を研究対象とし、

大規模な流れを記述する適切なモデルの構築を行うと同時に、乱流の普遍原理に解明に数学的な確証を与えた。流体力学の教育研究では、主として計算科学的方法、とくに大規模直接数値シミュレーションによる乱流現象の解明、及び数理物理学的根拠を持ち恣意的調節パラメータを含まない情報縮約手法を開発した。

2 若手研究者育成の目標の達成度

目標としたそれぞれ3つの若手研究者の人物像に対応して以下の3プログラムを実施した。

I. 広域的学際性養成プログラム

博士課程の早期段階において、

1. 英語プレゼンテーション
2. 論文作成指導

の2つ講義を開講し、研究者として必要な講演の方法、英語論文の構成法を習得させることが出来た。

II. 実践的研究能力強化プログラム

数理科学の基礎を身に付け、流体数学における最先端の専門知識を広範囲に渡って理解しうるエリート

教育を実施した。

実際、

1. 基礎科目講義
2. 流体数学専門講義
3. 論文直結型セミナー

を開講した。最先端の研究テーマに焦点を絞り、日独の大学間で少人数による議論を積み重ねて短期間で論文にまとめる能力を養成できた。

III. 情報発信能力養成・国際的リーダーシップ強化プログラム

早大と Darmstadt 工科大で相互に「JSPS-DFG 共同流体数学国際研究集会」を開催し、本プログラムによって派遣された大学院生がショートコミュニケーションまたはポスターセッションで研究成果を発表できた。

3 先進的な教育課程の展開目標の達成度

日独相互教育制度の充実を計り、プログラム参加の日本人大学院学生の学位論文をドイツ側教員が主査の教員と協働で指導し、補助的な助言を通じて副査を務めた。更に、ドイツ側教員を日本側のプログラム実施大学において JA(ジョイント・アポイントメント)教授として採用し、派遣院生とドイツ側教員との共同研究をより一層促進した。

3. これまでの交流を通じて得られた成果

これまでの交流を通じての成果を「共同課程の整備」、「継続的協力関係」、及び「教育研究効果」の観点から記載してください。(3頁以内)

○共同課程の整備

日独双方で目標に掲げた3プログラムを実施した。その過程で以下のカリキュラムを導入し、定着させた。

I. 広域的学際性養成プログラム

博士課程の早期段階において、研究者として必要な講演の方法、論文の構成法を習得する。

1. 英語プレゼンテーション

科学英語、英語論文作成法

2. 論文作成指導

II. 実践的研究能力強化プログラム

数理学の基礎を身に付け、流体数学における最先端の専門知識を広範囲に渡って理解しうるエリート教育を実施。

1. 基礎科目講義

関数解析学、フーリエ解析学、線形偏微分方程式論、発展方程式論、有限要素法、計算科学序論、連続体力学基礎

2. 流体数学専門講義

2.1. 早大カリキュラム(大学院科目として設置)

① 先端的非線形偏微分方程式講義

補間・補外空間論、非有界領域におけるスペクトル解析、自由境界値問題の L^p -理論、Hodge 分解と NS 方程式の定常問題、連続群の方法による時間周期解の構成、Pale-Smale 条件と峠の補題、端点 Strichartz 評価式とその応用、劣微分と退化放物型方程式系、無限次元 Lie 群と理想流体の方程式

② 先端的計算流体力学講義

多流体問題の数値シミュレーション、物体周りの流れ、流れの安定性解析、非線形・非平衡系のダイナミクス、情報の縮約と乱流モデル、複雑系の応用数理、機能表面化学

2.2. Darmstadt 工科大カリキュラム(早大 SGU 数物系コース科目として設置)

① 先端的非線形偏微分方程式講義

H^∞ -カリキュラスと L^p -最大正則性定理、 R -有界性と関数空間値 Fourier 掛け算作用素、弱 Neumann 問題とその応用、Ekman 境界層の数学的理論、Banach 極限による収束の計算可能性

② 先端的計算流体力学講義

非 Newton 流の L^p -理論、回転流体の L^p -理論、乱流の直接数値シミュレーション、電磁流体散乱における共役サンプリング法、プラズマ状態と境界層の振動、非定常流体の最適制御問題

3. 論文直結型セミナー

最先端の研究テーマに焦点を絞り、日独の大学間で少人数による議論を積み重ねて短期間で論文にまとめることを目標とする課題解決型セミナーを開講。

課題 1. NS 方程式の時間無限大における最良減衰指数と非線形高次漸近展開

課題 2. 渦度の集中と特異点の発生の相関

課題 3. 粘性領域における渦度集中の統計法則

課題 4. 2進分解関数における渦度の表現と NS 方程式の非適切性の解明

課題 5. 自由境界値問題の関数解析的手法による解法と時間大域解の構成

課題 6. 回転球上、回転殻内の流れに対するスケールによるヒエラルキーの構築

課題 7. 回転および並進運動する物体の周りの流れの解析

課題 8. 乱流の大スケールの普遍性に対する計算領域サイズの影響評価

課題 9. 乱流の非経験的 LES スペクトルモデルの構築

III. 情報発信能力養成・国際的リーダーシップ強化プログラム

早大・Darmstadt 工科大で毎年相互で「JSPS-DFG 共同流体数学国際研究集会」を開催し、本プログラムによって派遣された大学院生がショートコミュニケーションまたはポスターセッションで成果発表をすることを義務付けた。また、年度ごとに業務成果報告書を提出させ、当該年度事業のまとめと次年度の展望を描かせた。

○継続的協力関係

事業終了後、日独双方のプログラム参加者が合同でプログラムに対する自己評価を行う。また達成目標、終了後の教育、研究の進捗状況を判断し、客観的な検証のため、高い見識を有する国内外の専門家からなる外部評価委員会を設置し提言を乞う。この中で、各種サブプログラムに対し、そのまま有効であるもの、規模の縮小あるいは拡大で有効となるもの、有効ではなかったもの、さらに追加すべきもの、などの判断を行い、継続する事業形態を最終的に決定する。多くの資金を要する企画として、海外相互派遣プログラム、国際シンポジウム成果発表、サマースクール参加がある。相互派遣については、早大・重点領域機構である「熱エネルギー変換工学・数学融合研究所」からの支援を要請する。サマースクールや国際シンポジウムの参加については、指導教員の科研費をはじめとする外部資金の獲得や、学術振興会の 2 国間共同研究・セミナーに申請するなどして、日独双方の大学で院生の派遣を継続的に行う。実際、2018 年度は日独双方のコーディネーター（小藪・Hieber）が学術振興会・二国間交流事業共同セミナー（セミナー名「最大正則性と非線形偏微分方程式」）が採択され、実施予定である。一方、多額の資金を必要としない、英語プレゼンテーション、論文作成指導、論文直結型セミナー、質の高い論文作成とその国際著名雑誌への投稿指導については、すべて恒常的なプログラムとして有効であるものを提案しているので、終了後も継続する。大学院講義科目である「流体数学特別講義」については、引き続き開講する。更に事業期間中に開講した「流体数学セミナー」と「流体数学国際研究集会」を基礎に報告集を発行する。それは従来の会議報告集(Proceeding)とは異なり、流体数学ブックレット・シリーズと称して今後の研究の指針となるような入門的な講義録集として有益なものを目指す。事業の財源は、早大の学内組織である総合研究機構、重点領域研究機構等に要請する。さらに「日独共同教育プログラム継続委員会」を発足させ、事業終了後の企画を行う運営責任母体とする。

○教育研究効果

大型計算機の飛躍的な性能向上に伴い、流動現象の解明に計算科学的方法が広く使われつつある。

しかし、その難題である乱流の問題の根幹にかかわる空間のスケール無限大、粘性消滅、エネルギー減衰といった極限操作に対しては、流体数学における現代解析学の方法が威力を発揮すると期待されていた。

実際、調和解析学による非線形偏微分方程式の解の漸近展開の方法は、大規模な有限計算の極限状態を予測可能とし、乱流理論や乱流縮約モデルの構築に寄与できる。流体運動の解析はその基礎方程式であるナビエ・ストークス方程式(=NS 方程式)を考察することであると言っても過言ではない。NS 方程式は非線形特有の現象を引き出すことのできる典型的モデルとして、理論および実験両方の研究者から注目されている流体数学の最も重要な研究課題である。前世紀後半から「NS 方程式に対する理論と数値解析の両面か

らの研究」と題して、毎年定期的に国際シンポジウムが開かれており、世界トップレベルの研究者達が未解決問題に取り組んでいる。本共同教育参加者小藺，柴田はプログラムの期間中にドイツ側参加者 Hieber, Farwig と共同で、国際研究集会を 9 回開催し、世界最先端の流体数学の研究紹介し、また著名研究者による集中講義やミニコースを開講するなどして、日独双方の大学院生の教育に従事した。更に本プログラムに留まらず、わが国と欧州各地で主要国際研究集会の組織者を務め、多くの共同研究を実施し共著論文を作成した。特に指導院生を相互派遣することによって流体数学分野で確固たる国際研究グループを形成し、世界をリードするに至った。すなわち、世界トップクラスの流体数学・大学院研究者を養成する「エリート教育」を推進しつつ、さらに理工学全体に幅広い知識をもつ国際的な人材育成を目標とした本プログラムによって、科学技術立国日本の将来の一端を担うことに貢献したと言えよう。

4. プロジェクトの実施状況

(1) 分野及びプロジェクトの深化・発展

全期間を通じたプロジェクト実施目標を踏まえ、ドイツとの交流を通して、対象となる分野及びプロジェクトがどのようにして深化・発展したか記載してください。

乱流の解明は単に流体力学の分野に留まらず、地球環境、大気・海洋、宇宙・航空、エネルギー、防災等に象徴される我々社会の諸問題の解決に大きく関わっている。大型計算機の発達により単純化されたモデルの構築、小さなスケールの流れの解析がかなりの精度で実現されている。そのような状況下であるが故に、本プログラムのカリキュラム・直結型セミナーの実施により、無限大や極限といった数学解析独自の手法を身に着け、これまでの大規模計算科学による流体现象、とくに大きなスケールの乱流の普遍原理の確立に数学の観点から寄与し得る人材の養成に貢献した。このことは、火山の噴煙の予測、海洋に流出した原油の処理、竜巻の発生とその予測進路など社会的要請に応えるという意味で「流れの科学」の発達が社会貢献に大きな役割を果たすとも言えよう。当該研究課題は、非線形偏微分方程式論の推進という意味で純粋数学の分野にも大きな地位を占めると思われる。実際、七つのミレニアム問題の一つに「NS 方程式の大きなデータに対する解の一意存在」が選ばれていることから分かる。ここで言う大きなデータとは、まさに大きなレイノルズ数と同値であり、乱流の解明と密接に関わっている。幸い、近年の著しい数理解析的手法およびコンピュータのハード・ソフトの進展によってこの 60 年来の von Neumann の夢（計算機による乱流の解明）の現実化に大きく近づくことができると期待されている。実際、地球シミュレータや京による大規模な直接数値シミュレーションの方法は、流体力学を超えて、乱流を典型とする非線形超巨大自由度力学系に対する数理科学の新しい応用分野の開拓にも貢献できる。このように本プログラムの実施によって、実応用上の社会的貢献と共に NS 方程式を代表とする非線形偏微分方程式論、さらに巨大自由度の非線形力学系の変革をもたらさう若手研究者の育成に寄与する新たな理工系大学院教育のモデルが提示されたとも言えよう。

(2) コーディネーター及び参加教員の取り組み状況

日本側コーディネーター及び参加教員は当該プロジェクトを適切に実施したかどうか、日本側コーディネーターや教員等の取り組み状況に触れながら記載してください。

1. 共同課程の整備

Darmsrad 工科大における学位審査制度において日本側教員（小藺，柴田）が副査を務めた。また、早大の学位取得においてはドイツ側教員（Hieber）との共著論文が主要な部分を占めた。

2. 教育研究効果

日本人教員とドイツ若手研究者の共同研究（＝共著論文の作成）が促進された。

3. 教育研究制度の整備

早大理工学学術院と Darmstadt 工科大間のダブル・ディグリー制度導入の基礎を築いた。

4. 研究の促進

流体数学の根幹である NS 方程式について多くの研究成果が得られ、特に最大正則性定理による自由境界問題の解法と調和解析学的手法による適切性の解明が著しく発展した。また 9 回の国際研究集会を日独共同で開催し、本プログラムが当該分野における世界に向けての情報発信源となった。

5. 全般的な成果

- ・既存の早大・スーパーグローバル大学創成支援「数物系科学拠点」との協力強化
- ・同プログラムで実施した集中講義、ミニコースを基礎とした講義録の出版計画
- ・研究者養成を目標にした論文作成直結型講義・カリキュラムの編成
- ・数学解析、応用数学、計算科学、流体力学を相互横断的に促進できる人材の輩出

(3)教育研究環境の整備

プロジェクトの目的を達成するにあたって必要な施設設備、及び経済的負担の軽減措置等、日本側実施機関における組織的な取り組み状況について記載してください。

ドイツ側の大学院生の早大への研究滞在（一人当たり1 Semester）に対しては、来日前に早大国際課がビザ取得の手続きを支援した。また滞在期間中の宿泊場所として、学生課レジデンスセンター、留学生寮、提携寮（＝マンスリーアパート）を斡旋した。早大とダルムシュタット工科大の大学間協定及び MOU に基づき、単位互換、授業料不徴収、教育研究設備の使用（研究室、図書館、体育館等）を双方の大学で互いに提供しあった。

希望に応じて、早大内で開かれている留学生に対する日本語コースに参加できるようにした。日常生活においては、日本、ドイツといった互いに異文化の外国における人生最初の長期滞在であるため幾多の困難に遭遇したとの声が聴かれたが、実際には相手国の院生の献身的なケアにより克服された。これによって友人関係が築かれたことは、教育制度の整備などを遥かに凌ぐ本プログラムの計り知れない産物であり、両国の大学院にとって生涯の人的財産を得ることができたと確信している。

ドイツ側教員の研究者用の宿舎としては、早大における6戸のゲストハウス合計116室を提供し、滞在の宿泊費の大幅軽減に努めた。

学位取得に関しては、双方の大学教員の副査による学位審査が実施された。

(4)経費の合理性

経費が適切に執行されたかを記載してください。

実施期間中の配分額に占める割合

- ・ドイツへの旅費…H26:87%, H27:90%, H28 : 89%, H29 : 92%
- ・旅費に係る消費税額も含めた場合の割合…H26:98%, H27:96%, H28 : 96%, H29 : 99%

学生・教員メンバーのドイツ派遣旅費及びその旅費にかかる消費税に、ほとんどの予算を使用している。共同セミナーの開催費用やメンバーの学生の指導に必要な消耗品などが不足する場合は、一部を学内予算やその他の外部資金に充て、共同課程の実施を行った。

5. 今後の展望

今後、日本側とドイツ側実施機関との共同教育研究活動を持続的に展開していく上での将来展望について記載してください。

本プログラムによってこれまで多くの大学院生を相互派遣し、その殆どが学位取得後に大学や研究所に代表されるアカデミックな機関に職を得た。このことは、数学や物理学のような基礎学問を専攻する大学院生にとっては大きな目標となり、本プログラムが彼らにロールモデルを提供していると言える。数学のような特定の実験場、機械器具、大型計算機を有した特定の研究機関に属することを必要としない学問的特性を鑑みれば、自由に研究討論を行える人的および財的環境の整備・支援が研究の発展を促進する。そのような観点からも本プログラムは数学部門にとって実に有益であった。それ故、日本学術振興会からの財政的支援終了後に如何に各サブプログラムを実施していくかが課題となる。それぞれに対する展望は以下の通りである。

I. 広域的学際性養成プログラム

博士課程の早期段階において、研究者として必要な講演の方法、論文の構成法を習得する。幸い、本プログラム参加教員の献身的な教育義務負担が確保され、継続して担当講師を擁することができた。国際研究集会における英語講演が最も有効な実践となるが、派遣のための旅費の確保を他の経費で補うことに努力を要する。

早大スーパーグローバル大学創成支援「数物系科学拠点」経費によって補う予定である。

II. 実践的研究能力強化プログラム

数理科学の基礎を身に付け、流体数学における最先端の専門知識を広範囲に渡って理解しうるエリート教育を継続する。知識提供のためには世界トップレベルの研究者による集中講義が有効である。講師陣の確保と、科研費や早大自前の教育資金等の本プログラム終了後の外部資金による招聘旅費の捻出が課題となる。差し当たりは、既存の研究集会にミニコースを設けるなどして、大学院を対象として初学者への教育的な要素を取り入れることとする。また若手研究者の企画能力向上を目指し、例えば京都大学数理解析研究所によるRIMS共同研究（グループ型）に応募を促進する。

III. 情報発信能力養成・国際的リーダーシップ強化プログラム

本プログラムが基礎となって平成 30 年度学術振興会共同セミナー（ドイツ）「最大正則性と非線形偏微分方程式」が採択された。同セミナーの実施により、日独双方の若手研究者の研究交流の場が継続的に提供され、将来的には 2 国間に留まらない国際共同研究へと発展する可能性を模索する。また科研費の新企画“国際共同研究強化 B”に応募し、本プログラムで学位を取得した若手研究者の更なる育成にも貢献する。本プログラムに加え、平成 21 年度～25 年度「流体数学」から 9 年間に渡って開講された流体数学特別講義、解析の基礎数学等の講義内容をまとめ、講義録を出版する。それによって、早稲田大が数学解析部門において世界に向けての情報発信源となることを国内外にアピールする。

IV. 日独相互教育制度の充実

年度によってプログラム参加のドイツ側大学院学生の学位論文を日本側コーディネーターが主査の教員と協働で指導し、補助的な助言を通じて副査を務めた。今後はドイツ側の参加教員が日本側参加大学院生の学位審査の副査を務めるなど両方向の指導体制整備が課題である。9 年間の相互研究の実績を背景に、例えば、年度ごとに「日独流体数学優秀学位賞」などの顕彰事業も視野に入れる。またダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー、コチュテル等のより進んだ日独双方の大学による学位制度の確立が望まれている。そのためには、教員の相互雇用（ジョイント・アポイントメント）が望まれ、人件費確保や研究室整備が欠かせない。

6. 活動実績

(1) 共同課程

実施した「共同課程」について概略を記入してください。

1	科目名等	流体数学の基礎	提供期間	平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月(内、6 日間)
	提供した大学	早稲田大学, ダルムシュタット工科大学	単位数	0
	概要	<p>作用素の分数冪・半群理論, スペクトル分解定理など関数解析および発展方程式の基礎について解説した。またフーリエ掛け算作用素, 分数積分作用素等のフーリエ解析学の初歩を学習した後, 線形偏微分方程式への応用を試みた。これらの単元は通常は大学院修士課程の履修科目ではあるが, 流体力学の基礎方程式の線形化解析に如何に適用可能かという観点から再検討が行われた。実際, 流体の運動方程式は非線形偏微分方程式であるため統一的な解法はなく, 線形化による手法は有用である。しかし, 線形化の方法には線形理論そのものに留まる解析と非線形方程式への応用が可能な解析がある。受講した大学院生は後者の立場から線形偏微分方程式論を再構成する必然性を習得できたと期待している。</p>		
2	科目名等	流体数学特別講義	提供期間	平成 26 年 4 月～平成 30 年 1 月
	提供した大学	早稲田大学, ダルムシュタット工科大学	単位数	6
	概要	<p>H26 年度：先端的非線形偏微分方程式講義として, 補間・補外空間論, 非有界領域におけるスペクトル解析, 自由境界値問題の L^p-理論, 端点 Strichartz 評価式とその応用等を解説した。また有限要素法による線形ストークス方程式の 2 相問題の解法を先端的計算流体力学講義として開講した。これらは流体数学分野における高度な専門知識であり, 論文執筆の際の主要な解析的手法を提供する。実際, これまで主定理の証明にこれらの概念が頻繁に用いられている。本特別講義では, 非圧縮性および圧縮性ナビエ・ストークス方程式の双方に渡って, 相転移が起こる自由境界問題に付随する L^p-最大正則性定理の習得を最終目標に掲げた。</p> <p>日本側履修者のうち, 2 人の院生が同定理を主な解析手法とした学位論文を執筆し, 今年度の特別講義開講の有用性が伺える。</p> <p>H27 年度：先端的非線形偏微分方程式講義として, 作用素の半群と分数冪の理論, 補間・補外空間論, 非有界領域におけるスペクトル解析, 自由境界値問題の L^p-理論, 熱半群による統計力学における不等式の導出とその応用等を解説した。また有限要素法による線形ストークス方程式の近似解法を先端的計算流体力学講義として開講した。これらは流体数学分野における高度な専門知識であり, 論文執筆の際の主要な解析的手法を提供する。実際, これまで主定理の証明にこれらの概念が頻繁に用いられている。本特別講義では昨年度と同様に, 非圧縮性および圧縮性ナビエ・ストークス方程式の双方に渡って, 相転移が起こる自由境界問題に付随する L^p-最大正則性定理の習得を最終目標に掲げた。</p> <p>日本側履修者のうち, 2 人の院生が同定理を主な解析手法とした学位論文を平成 28 年度に提出した。</p> <p>H28 年度：流体数学における最先端の専門知識を広範囲に渡って理解しうるエリート教育を実施した。</p> <p>① 先端的非線形偏微分方程式講義（日本側担当）</p> <p>日本側は, 補間・補外空間論, 非有界領域におけるスペクトル解析, 自由境界</p>		

	<p>値問題の L^p-理論, Pale-Smale 条件と峠の補題, 劣微分と退化放物型方程式系について講義を行い, 非線形偏微分方程式の解法に有益な概念を習得した.</p> <p>② 先端的計算流体力学講義 (ドイツ側担当)</p> <p>ドイツ側は, 物体周りの流れ, 流れの安定性解析を担当した.</p> <p>参加院生は講義を聴講することにより, 高度な流体数学の素養を習得し, 論文直結型セミナーへの基礎となった.</p> <p>H29 年度: 流体数学における最先端の専門知識を広範囲に渡って理解しうるエリート教育を実施した.</p> <p>① 先端的非線形偏微分方程式講義 (日本側担当)</p> <p>日本側は, 非有界領域におけるスペクトル解析, 自由境界値問題の L^p-理論, Hodge 分解と NS 方程式の定常問題, 連続群の方法による時間周期解の構成を担当した.</p> <p>② 先端的計算流体力学講義 (ドイツ側担当)</p> <p>ドイツ側は, 非線形・非平衡系のダイナミクス, 情報の縮約と乱流モデルを担当した.</p> <p>参加院生は講義を聴講することにより, 高度な流体数学の素養を習得し, 論文直結型セミナーへの基礎となった.</p>		
3	科目名等	流体数学講究	提供期間 平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月
	提供した大学	早稲田大学, ダルムシュタット工科大学	単位数 8
	概要	<p>H26 年度: 講究の予備知識として「流体数学の基礎」, 「流体数学特別講義」の聴講が義務付けられる. 論文直結型セミナーを中心に, 日独双方の教員と院生の協働による討論形式で共同研究を推進した. 本プログラム参加の院生日本側 2 人, ドイツ側の 1 人が学位を取得した. そのいずれも相手側教員あるいは院生同志との共著論文が副論文になっており, 「流体数学講究」が学論文の実質的な効果をもたらせていることが伺える.</p> <p>H27 年度: 講究の予備知識として「流体数学の基礎」, 「流体数学特別講義」の聴講が義務付けられる. 論文直結型セミナーを中心に, 日独双方の教員と院生の協働による討論形式で共同研究を推進した.</p> <p>課題 3. 粘性領域における渦度集中の統計法則</p> <p>課題 4. 2 進分解関数における渦度の表現と NS 方程式の非適切性の解明</p> <p>について検討を行った. 本プログラム参加のドイツ側の 1 人が学位を取得し, 上記論文直結型セミナーを担当した日本側コーディネーターがその学位論文審査の副査となった. この様に, 「流体数学講究」が本プログラムに参加する院生の学論文に実質的な効果をもたらせていることが伺える.</p> <p>H28 年度: 最先端の研究テーマに焦点を絞り, 日独の大学間で少人数による議論を積み重ねて短期間で論文にまとめることを目標とする課題解決型セミナーを開講した. まずは教員がいくつかのテーマを受講院生に提供し, 討論を通じて, テーマの当該分野における重要性, 将来の発展性, 他への波及効果を議論した. その上で課題解決のための困難さおよび所要日数を評価し, 論文作成のため取り組むべき題目を選定した.</p> <p>課題 5. 自由境界値問題の関数解析的手法による解法と時間大域解の構成</p> <p>課題 6. 回転球上, 回転殻内の流れに対するスケールによるヒエラルキーの構築</p>	

		<p>について検討を行った。</p> <p>H29 年度：最先端の研究テーマに焦点を絞り、日独の大学間で少人数による議論を積み重ねて短期間で論文にまとめることを目標とする課題解決型セミナーを開講した。まずは教員がいくつかのテーマを受講院生に提供し、討論を通じて、テーマの当該分野における重要性、将来の発展性、他への波及効果を議論する。その上で課題解決のための困難さおよび所要日数を評価し、論文作成のため取り組むべき題目を選定した。</p> <p>課題 7. 回転および並進運動する物体の周りの流れの解析</p> <p>課題 8. 乱流の大スケールの普遍性に対する計算領域サイズの影響評価</p> <p>課題 9. 乱流の非経験的 LES スペクトルモデルの構築</p> <p>について検討を行った。</p>		
4	科目名等	解析の基礎数学	提供期間	平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月
	提供した大学	早稲田大学, ダルムシュタット工科大学	単位数	4
	概要	<p>近代解析学の基礎である関数解析学、フーリエ解析学、発展方程式論、有限要素法、連続体力学基礎を系統的に学習した。各項目の発展形として、作用素の分数冪、半群の生成定理、最大関数の L^p 有界性、ハーディ空間論、最大正則性定理等を紹介した。講義内容は純粋数学をコアとしたが、広域的学際性を重視し、数学専攻の開講科目とするのではなく、広く理工系大学院生をも対象とした専攻横断科目と位置付けた。受講生は、数学の基礎科目を習得することを通じて、科学の基礎言語を学んだ。汎用性のある基礎科目であることに鑑み、本プログラムによる講義ノートを作成し、解析学の基礎の普及に努めることとした。</p>		

※ 記入欄が足りない場合には、適宜追加してください。

(2) 研究発表

教員等・大学院学生が本プロジェクトの成果として実施期間中に発表した主な論文等(本事業名が明記されているもの)を記載してください。参加教員等・大学院学生の氏名にはアンダーラインを付してください。また、ドイツ側の参加者との共著論文には、文頭の番号に○印を付してください。

① 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文

・査読がある場合、印刷済み及び採録決定済のものに限り、査読中・投稿中のものは除く。また「査読」欄に○印を付す。

整理番号	著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読	相手国名 (共著の場合)
①	D. Goetz and <u>Y. Shibata</u> , On the R-boundedness of the Solution Operators in the Study of the Compressible Viscous Fluid Flow with Free Boundary Conditions, <i>Asymptotic Analysis</i> 90 (2014), 207–236.	○	ドイツ
2	T. Kubo, <u>Y. Shibata</u> and K. Soga, On the R-Boundedness for the Two Phase Problem, <i>Compressible-Incompressible Model Problem</i> , <i>Boundary Value Problems</i> (2014).	○	
3	<u>H. Notsu</u> and M. Kimura, Symmetry and Positive Definiteness of the Tensor-Valued Spring Constant Derived from P1-FEM for the Equations of Linear Elasticity. <i>Networks and Heterogeneous Media</i> , <i>American Institute of Mathematical Sciences</i> , Vol.9 (2014) no.4, 617–634.	○	
4	<u>H. Notsu</u> and <u>M. Tabata</u> , Stabilized Galerkin-Characteristics Finite Element Schemes for Flow Problems. In P. Iványi and B.H.V. Topping (Eds), <i>Proceedings of the Ninth International Conference on Engineering Computational Technology</i> , Civil-Comp Press, Stirlingshire, UK, Paper 71 (2014) (13 pages).	○	
⑤	<u>M. Hieber</u> and <u>M. Murata</u> , The Lp-Approach to the Fluid-Rigid Body Interaction Problem for Compressible Fluids, <i>Evol. Equ. Control Theory</i> , 4 (2015) no.1, 69–87.	○	ドイツ
6	<u>H. Notsu</u> and <u>M. Tabata</u> , Error Estimates of a Pressure-Stabilized of Characteristics Finite Element Scheme for the Oseen Equations. <i>Journal Scientific Computing</i> , Vol.65 (2015) 940–955.	○	
7	H. Notsu, Theory and Practice of Lagrange-Galerkin Methods. <i>Journal of the Japan Society for Computational Engineering and Science</i> , Vol.20 (2015) no.3, 21–24 (in Japanese).	○	
⑥	<u>K. Schade</u> and <u>Y. Shibata</u> , On Strong Dynamics of Compressible Nematic Liquid Crystals, <i>SIAM J. Math. Anal.</i> , 47(5) (2015) 3963–3992.	○	ドイツ
9	P.-Y. Hsu, <u>H. Notsu</u> and T. Yoneda, A Local Analysis of the Axisymmetric Navier-Stokes Flow Near a Saddle Point and No-Slip Flat Boundary. <i>Journal of Fluid Mechanics</i> , Vol.794 (2016) 444–459.	○	
10	<u>T. Kato</u> , Solutions to Nonlinear Higher Order Schrödinger Equations with Small Initial Data on Modulation Spaces, <i>Adv. Differential Equations</i> , 21 (2016) 201–234.	○	
11	<u>K. Tsuda</u> , On the Existence and Stability of Time Periodic Solution to the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, <i>Arch. Rational Mech. Anal.</i> , 216 (2016) 637–678.	○	
12	T. Kubo, <u>Y. Shibata</u> and K. Soga, On Some Two Phase Problem for Compressible and Compressible Viscous Fluid Flow Separated by Sharp Interface, <i>Discrete and Continuous Dynamical Systems Series A</i> 36(7) (2016), 3741–3774.	○	
⑦	<u>M. Lukáčová</u> , <u>H. Notsu</u> and <u>B. She</u> , Energy Dissipative Characteristic Schemes for the Diffusive Oldroyd-B Viscoelastic Fluid. <i>International Journal for Numerical Methods in Fluids</i> , Vol.81 (2016) 523–557.	○	ドイツ
14	<u>H. Notsu</u> and <u>M. Tabata</u> , Error Estimates of a Stabilized Lagrange-Galerkin Scheme for the Navier-Stokes Equations. <i>ESAIM: M2AN</i> , Vol.50 (2016) 361–380.	○	
15	<u>H. Notsu</u> and <u>M. Tabata</u> , Error Estimates of a Stabilized Lagrange-Galerkin Scheme of	○	

	Second-Order in Time for the Navier-Stokes Equations. In Y. Shibata and Y. Suzuki (eds.), <i>Mathematical Fluid Dynamics, Present and Future</i> , (2016) 497-530.		
16	H. Notsu and M. Tabata, Stabilized Lagrange-Galerkin Schemes of First-and Second-Order in Time for the Navier-Stokes Equations. In Y. Bazilevs and K. Takizawa (eds.), <i>Advances in Computational Fluid-Structure Interaction and Flow Simulation: New Methods and Challenging Computations</i> , (2016) 331-343.	○	
17	H. Saito and Y. Shibata, On Decay Properties of Solutions to the Stokes Equations with J. Surface Tension and Gravity in the Half Space, <i>Math. Soc. Japan</i> , 68 (2016) no.4, 1559-1614.	○	
18	M. Tabata and S. Uchiumi, A Genuinely Stable Lagrange-Galerkin Scheme for Convection-Diffusion Problems. <i>Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics</i> , Vol.33 (2016) no.1, 121-143. doi:10.1007/s13160-015-0196-2.	○	
19	G. Takahashi, Partial Regularity and Extension of Solutions to the Navier-Stokes Equations. <i>RIMS Kokyuroku 2009</i> , (2016) 124-133.	○	
20	M. Heiber and H. Saito, Strong Solutions for Two-Phase Free Boundary Problems for a Class of Non-Newtonian Fluids, <i>Journal of Evolution Equations</i> , 17 (2017) no.1, 335-358.	○	ドイツ
21	T. Kato, Well-Posedness for the Generalized Zakharov-Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, <i>J. Fourier Anal. Appl.</i> 23 (2017) 612-655.	○	
22	H. Koba, On $L^3; \infty$ -Stability of the Navier-Stokes System in Exterior Domains, <i>Journal of Differential Equations</i> , 262 (2017) 2618-2683, MR3582240.	○	
23	H. Koba, On Stability of Leray's Stationary Solutions of the Navier-Stokes System in Exterior Domains, <i>Journal of the Mathematical Society of Japan</i> , 69 (2017) 373-396. MR3597558.	○	
24	M. Lukáčová, H. Mizerová, H. Notsu and M. Tabata, Numerical Analysis of the Oseen-Type Peterlin Viscoelastic Model by the Stabilized Lagrange-Galerkin Method, Part I: A Nonlinear Scheme. <i>ESAIM: M2AN</i> , Vol.51 (2017) 1637-1661.	○	ドイツ
25	M. Lukáčová, H. Mizerová, H. Notsu and M. Tabata, Numerical Analysis of the Oseen-Type Peterlin Viscoelastic Model by the Stabilized Lagrange-Galerkin Method, Part II: A Linear Scheme. <i>ESAIM: M2AN</i> , Vol.51 (2017) 1663-1689.	○	ドイツ
26	S. Maryani and H. Saito, On The R-Boundedness of Solution Operator Families for Two-Phase Stokes Resolvent Equations, <i>Differential and Integral Equations</i> , 30 (2017) no.1-2, 1-52.	○	インドネシア
27	R. Farwig, H. Kozono and David Wegmann, Existence of Strong Solutions and Decay of Turbulent Solutions of Navier-Stokes Flow with Nonzero Dirichlet Boundary Data. <i>J. Math. Anal. Appl.</i> 453 (2017) no.1, 271-286.	○	ドイツ
28	N. Kajiwara, Strong Well-Posedness for the Phase-Field Navier-Stokes Equations in the Maximal Regularity Class, to appear, <i>Communications in Mathematical Sciences</i> , 16(2018) no.1, 239-250.	○	
29	Y. Kaneko and H. Matsuzawa, Spreading and Vanishing in a Free Boundary Problem for Nonlinear Diffusion Equations with a Given Forced Moving Boundary, <i>J. Differential Equations</i> , 265 (2018) 1000-1043. (DOI: 10.1016/j.jde.2018.03.026)	○	
30	T. Kemmochi, On the Finite Element Approximation for Non-Stationary Saddle-Point Problems. <i>Japan J. Indust. Appl. Math.</i> (on-line) (2018).	○	
31	M. Kunimoto, D. Bothe, R. Tamura, T. Oyanagi, Y. Fukunaka, H. Nakai and T. Homma, Spectroscopic and Computational Analyses of Liquid-Liquid Interfacial Reaction Mechanism of Boric Acid Esterification with 2,2,4-Trimethyl-1,3-Pentanediol in Boron Extraction Processes, <i>J. Phys. Chem. C</i> , 122 (2018)no.19, 10423-10429. doi: 10.1021/acs.jpcc.8b01086	○	ドイツ
32	N. Mori, R. Racke, Global Well-Posedness and Polynomial Decay for a Nonlinear Timoshenko-Cattaneo System Under Minimal Sobolev Regularity, <i>Nonlinear Analysis</i> 173 (2018) 164-179.	○	ドイツ

33	<u>H. Saito</u> , Global Solvability of the Navier–Stokes Equations with a Free Surface in the Maximal L_p – L_q Regularity Class, <i>Journal of Differential Equations</i> , 264 (2018) no.3, 1475–1520.	○	
34	<u>Y. Shibata</u> , On the Local Wellposedness of Free Boundary Problem for the Navier–Stokes Equations in an Exterior Domain, accepted for publication in <i>CPAA</i> , 17(4) (2018) 1681–1721.	○	
35	<u>M. Tabata</u> and <u>S. Uchiumi</u> , An Exactly Computable Lagrange–Galerkin Scheme for the Navier–Stokes Equations and Its Error Estimates. <i>Mathematics of Computation</i> , Vol.87 (2018) 39–67. doi:10.1090/mcom/3222.	○	
36	<u>M. Tabata</u> and <u>S. Uchiumi</u> , Numerical Computation of Triangular Cavity Flows by a Lagrange–Galerkin Scheme with a Locally Linearized Velocity. <i>Journal of Advanced Simulation in Science and Engineering</i> , Vol.4 (2018) 1–13.	○	
37	<u>N. Kajiwara</u> , On the Bidomain Equations as Parabolic Evolution Equations, <i>Theory of Evolution Equation and Mathematical Analysis of Nonlinear Phenomena</i> , <i>RIMS Kôkyûroku</i> , to appear.		
38	<u>H. Saito</u> , Compressible Fluid Model of Korteweg Type with Free Boundary Condition: Model Problem, to appear in <i>Funkcialaj Ekvacioj</i> , arXiv:1705.00603 [math.AP].	○	
39	<u>K. Watanabe</u> , Compressible–Incompressible Two–Phase Flows with Phase Transition: Model Problem, to appear in <i>J. Math. Fluid Mech.</i>	○	

②国際会議における発表

- ・著者名(参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、発表題名、発表した学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等を記載すること。発表者に○印を付すこと。
- ・査読がある場合、「査読」欄に○印を付す。

整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
1	OH. Kozono, Leray's Inequality in Multi-Connected Domains, Colloquium at Dep. Math., Inha Univ., Korea, 口頭, 2014 年 4 月 8 日.		
2	OH. Kozono, Convergence of D-Solutions in Constant Vectors at Infinity of the Stationary Navier–Stokes Equations Past an Obstacle, Vorticity, Rotation and Symmetry (III); Approaching Limiting Cases of Fluid Flows, CIRM Luminy, France, 口頭, 2014 年 5 月 9 日.		
3	OY. Shibata, On Some Two Phase Problem – Incompressible and Compressible Viscous Flows Separated by Sharp Interface, Conference on Fluid Dynamics and Electromagnetism; Bellavista Relax Motel in Levico Terme (Trento), 口頭, 論文 1, 2014 年 6 月 3 日 – 6 日.		
4	OH. Kozono, Behavior of D-Solutions in Constant Velocity at Infinity of the Stationary Navier–Stokes Equations Past an Obstacle, Colloquium at the Institute of Mathematical Sciences, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, 口頭, 2014 年 6 月 23 日.		
5	OT. Ozawa, Nonlinear Schrödinger Equation in Two Dimensional Domains 2014, International Conference of the Honam Mathematical Society Chosun University, Honam Mathematical Society Chosun University, Gwangju, Republic of Korea, 口頭, 2014 年 6 月 27 日.		
6	OY. Shibata, On Some Two Phase Free Boundary Problem for Compressible Viscous Fluid Flow, The 10th AIMS International Conference on Dynamical Systems, Differential Equations and Applications, Universidad Complutense de Madrid, 口頭, 2014 年 7 月 7 日 – 11 日.		

7	OK. Tsuda, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, RIMS Workshop on Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS Kyoto University, 口頭, 論文 11, 2014 年 7 月 2 日 - 4 日.		
8	OH. Notsu and M. Tabata, Error Estimates of a Stabilized Characteristics Finite Element Scheme for the Navier-Stokes Equations. International Congress of Mathematicians (ICM 2014), Coex, Seoul, Korea, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2014 年 8 月 19 日.	○	
9	OH. Notsu, A Stabilized Characteristics Finite Element Scheme for Three-Dimensional Flow Problems, The Fifth China-Japan-Korea Conference on Numerical Mathematics, Ningxia University, Yinchuan, China, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2014 年 8 月 27 日.		
10	OH. Kozono, D-Solutions of the Navier-Stokes Equations Past an Obstacle, Sixth Euro-Japanese Workshop on Blow-up, Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan, 口頭, 2014 年 9 月 2 日.		
11	OH. Notsu and M. Tabata, Stabilized Galerkin-Characteristics Finite Element Schemes for Flow Problems, The Ninth International Conference on Engineering Computational Technology (ECT 2014), Royal Continental Hotel, Naples, Italy, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2014 年 9 月 5 日.	○	
12	OT. Ozawa, Systems of Quadratic Dispersive Equations, Roman Summer School and Workshop KAM Theory and Dispersive PDEs, University LA SAPIENZA, Roma, Italy, 口頭, 2014 年 9 月 8 日.		
13	OT. Ozawa, Finite Time Extinction for Nonlinear Schrödinger Equation, 10th Topics in Nonlinear Problems, Oita Prefecture Chushokigyo Kaikan, Oita, Japan, 口頭, 2014 年 9 月 17 日.		
14	OH. Kozono, D-Solutions of the Stationary Navier-Stokes Equations Past an Obstacle, Classical Problems and New Trends in Mathematical Fluid Dynamics, Ferrara, Italy, 口頭, 2014 年 10 月 2 日.		
15	OT. Kato, Time Decay Estimates for Dispersive Equations, Autumn School and Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Bad Boll, Germany, 口頭, 論文 10, 2014 年 10 月 27 日-30 日.		
16	OY. Shibata, On a Global Well-Posedness of Strong Dynamics of Incompressible Nematic Liquid Crystals in RN, Autumn School and Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Bad Boll, Germany, 論文 8, 2014 年 10 月 27 日 - 30 日.		
17	OG. Takahashi, Extension Criterion on Strong Solutions to the Navier-Stokes Equations, The 10th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Bad Boll, Germany, 口頭, 論文 19, 2014 年 10 月 27 日 - 30 日.		
18	ON. Mori, Dissipative Timoshenko System Versus Timoshenko-Cattaneo System, JSPS-DFG Japanese-German Graduate Externship, The 10th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Bad Boll, Germany, 口頭, 2014 年 10 月 29 日.		

19	OH. Koba, On Fluid-Flow on an Evolving Hypersurface, Autumn School and Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Evangelische Akademie Bad Boll, Bad Boll, Germany, 口頭, 2014 年 10 月 30 日.		
20	OT. Ozawa, Improvement of Hölder's Inequality Modern Harmonic Analysis and Applications, Saitama University, Saitama, Japan, 口頭, 2014 年 10 月 30 日.		
21	OD. Noboriguchi, Stochastic Scalar Conservation Laws with Dirichlet Boundary Conditions, Autumn School and Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Bad Boll Germany, 口頭, 2014 年 11 月 6 日.		
22	OY. Kaneko, Spreading and Vanishing for a Free Boundary Problem in Population Ecology, International Research Training Group Seminar, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2014 年 11 月 11 日.		
23	OH. Kozono, Stability of the Large Stationary Solutions to the Navier-Stokes Equations under the General Flux Condition, International Conference on Mathematical Fluid Dynamics, Present and Future, Waseda Univ., Tokyo, Japan, 口頭, 2014 年 11 月 13 日.		
24	OH. Notsu, A Stabilized Galerkin-Characteristics Finite Element Scheme for the Navier-Stokes Equations: Theory, Computations and Applications, International Conference on Mathematical Fluid Dynamics, Present and Future, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2014 年 11 月 14 日.		
25	OH. Saito and Y. Shibata, On Decay Properties of Solutions to the Stokes Equations with Surface Tension and Gravity in the Half Space, RIMS Workshop on Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, RIMS, Kyoto University, Japan, 口頭, 論文 17, 2014 年 11 月 18 日.		
26	ON. Mori, Global Existence and Decay of Solutions to the Nonlinear Timoshenko System, RIMS Workshop Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, Kyoto University, Japan, 口頭, 2014 年 11 月 19 日.		
27	OT. Kato, Solutions to Nonlinear Higher Order Schrödinger Equations with Small Initial Data on Modulation Spaces, IRTG Seminar, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 10, 2014 年 11 月 25 日.		
28	OH. Notsu, A Stabilized Galerkin-Characteristics Finite Element Scheme for the Navier-Stokes Equations and Its Applications, Workshop: Numerical Methods and Analysis for Structures and Singularities in Fluids, Nagoya University, Nagoya, Japan, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2014 年 12 月 9 日.		
29	OH. Kozono, Stability of the Large Stationary Solutions to the Navier-Stokes Equations under the General Flux Condition, International Workshop on Nonlinear Partial Differential Equations, Okayama International Center, Okayama, Japan, 口頭, 2014 年 12 月 10 日		
30	ON. Mori, Dissipative Structure and Nonlinear Stability for the Dissipative Timoshenko System, Mathematical Analysis on Fluid Dynamics and Conservation Laws, Tokyo Institute of Technology, Japan, 口頭, 2015 年 1 月 21 日.		

31	OH. Kozono, Stability of the Large Solutions to the Stationary Navier–Stokes Equations in 3D Multi–Connected Domains, The 32nd Kyushu Symposium on Partial Differential Equations, Kyushu University Nishijin Plaza, 口頭, 2015 年 1 月 29 日.		
32	OH. Kozono, Stability of Large Solutions to the Stationary Navier–Stokes Equations in 3D Multi–Connected Domains, Advanced Seminar on Analysis at the Martin–Luther University of Halle, Germany, 口頭, 2015 年 2 月 4 日.		
33	OH. Notsu, Error Estimates of Stabilized Lagrange–Galerkin Finite Element Schemes for Flow Problems, 2015, A3 Joint Workshop on Fluid Dynamics and Material Science, Peking University, Beijing, China, 口頭, 論文 4•6•7•9•14•15•16, 2015 年 2 月 13 日.		
34	OY. Shibata, On the Maximal L_p – L_q Regularity for the Operator in the Study of the Viscous Fluid Flow in Unbounded Domains, Shanks Workshop on Mathematical Aspects of Fluid Dynamics, Vanderbilt University, US, 口頭, 2015 年 2 月 28 日 – 3 月 1 日.		
35	OT. Kato, Solutions to Nonlinear Higher Order Schrödinger Equations on Modulation Spaces, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 論文 10, 2015 年 3 月 10 日 – 13 日.		
36	OG. Takahashi, Extension Criterion on Time Local Solutions to the Navier–Stokes Equations, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda, Japan, 口頭, 2015 年 3 月 10 日 – 13 日.		
37	ON. Mori, Decay Property of the Timoshenko System with Memory–Type Dissipation, JSPS–DFG Japanese–German Graduate Externship, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2015 年 3 月 11 日.		
38	OM. Murata and M.Hieber, Local Well–Posedness of the Fluid–Rigid Body Interaction Problem for Compressible Fluids, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 5, 2015 年 3 月 11 日.		ドイツ
39	OH. Saito, Free Boundary Problem for the Incompressible Navier–Stokes Equations in Some Unbounded Domain, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 論文 33, 2015 年 3 月 11 日.		
40	OH. Notsu, Error Estimates of Lagrange–Galerkin Finite Element Schemes for Natural Convection Problems, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 4•6•7•9•14•15•16, 2015 年 3 月 12 日.		
41	OD. Noboriguchi, The Initial–Boundary Value Problems for Scalar Conservation Laws with Stochastic Forcing, The 11th Japanese–German International Workshop on Math. Fluid Dynamics, Waseda Univ., Japan, 口頭, 2015 年 3 月 13 日.		
42	OT. Ozawa, Finite Time Extinction for Nonlinear Schrödinger Equation, Workshop on Nonlinear Partial Differential Equations, Zhejiang University, Hangzhou, China, 口頭, 2015 年 3 月 14 日 – 15 日.		

43	OH. Notsu and M. Tabata, Error Estimates of Stabilized Galerkin–Characteristics Finite Element Schemes for Incompressible Flow Problems, The 18th International Conference on Finite Elements in Flow Problems (FEF2015), Taipei, Taiwan, 口頭, 論文 4•6•7•9•14•15•16, 2015 年 3 月 17 日.		
44	OY. Kaneko, Criteria of Spreading and Vanishing for a Free Boundary Problem in Mathematical Ecology, The 11th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2015 年 3 月 23 日 – 27 日.		
45	OD. Noboriguchi, A Kinetic Formulation for Stochastic Scalar Conservation Laws with Boundary Conditions, Stochastic Analysis of Spatially Extended Models, TU Darmstadt Germany, 口頭, 2015 年 3 月 26 日.		
46	OH. Kozono, Stability of Large Solutions to the Stationary Navier–Stokes Equations in 3D Multi–Connected Domain, Workshop on the Navier–Stokes Equations, In Honour of Prof. Reinhard Farwig’s 60th Birthday TU Darmstadt, Fraunhofer Institut (IGD), Germany, 口頭, 2015 年 4 月 23 日.		
47	OM. Kunimoto, R. Tamura, T. Oyanagi, N. Matsuo, Y. Fukunaka, H. Nakai and T. Homma, Computational and Spectroscopic Study for Reaction Mechanism of Boric Acid Extraction in Micro–Channel Device, 227th ECS Meeting, Chicago, USA, 口頭, 論文 31, 2015 年 5 月 26 日.		
48	OS. Maryani, On the Free Boundary Problem for the Oldroyd–B Model in the Maximal L_p – L_q Regularity Class, JSPS–DGF Japanese–German Graduate Externship, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2015 年 6 月 15 日.		
49	OT. Ozawa, Hardy Type Inequalities, Workshop on Partial Differential Equations and Numerical Analysis (Nonlinear PDE Meeting at Yanbian University July 2015, Yanji), Yanbian University, Jilin Sheng, China, 口頭, 2015 年 7 月 8 日.		
50	OH. Saito, Global Solvability of the Navier–Stokes Equations with a Free Surface, RIMS Workshop on Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS, Kyoto University, Japan, 口頭, 論文 26, 2015 年 7 月 9 日.		
51	ON. Mori, Global Existence and Optimal Decay Rates of Solutions to the Classical Timoshenko System in the Framework of Besov Spaces, RIMS Workshop Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, Kyoto University, Japan, 口頭, 2015 年 7 月 10 日.		
52	OS. Enomoto, Stability of Spatially Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation in a Periodic Layer, PNU MATH FORUM 2015, Pusan National Univ., 口頭, 2015 年 7 月 15 日 – 17 日.		
53	OK. Tsuda, Time–Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes–Korteweg System on R^3 , RIMS Workshop on Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS Kyoto University, 口頭, 2015 年 7 月 8 日 – 10 日.		

54	OT. Ozawa, Quadratic Interactions in Systems of Dispersive Equations, 10th International ISAAC Congress University of Macau Session 10 : Harmonic Analysis and PDEs, University of Macau, China, 口頭, 2015 年 8 月 3 日 - 5 日.		
55	OG. Takahashi, Extension Criterion via Morrey Type Functional on Solutions to the Navier-Stokes Equations, Mathematics for Nonlinear Phenomena: Analysis and Computation International Conference in Honour of Professor Yoshikazu Giga on his 60th Birthday, Sapporo, Japan, ポスター, 論文 19, 2015 年 8 月 16 日.		
56	OY. Shibata, Two Phase Problem, Mathematical Fluid Mechanics, Old Problems, New Trends, Banach Center, Poland, 口頭, 2015 年 8 月 30 - 9 月 5 日.		
57	OH. Kozono, Hadamard Variational Formula for Eigenvalues of the Stokes Equations and its Application, Banach Center Conference, Mathematical Fluid Mechanics: Old Problems, New Trends - a week for Wojciech Zajackowski Bedlewo, Poland, 口頭, 2015 年 9 月 1 日.		
58	OT. Ozawa, On Critical Hardy Inequality, Analysis Seminar in Peking University, Peking University, China, 口頭, 2015 年 9 月 2 日.		
59	S. Maryani and OH. Saito, On a Two-Phase Problem for the Incompressible Navier-Stokes Equations, International Conference, Mathematical Fluid Mechanics: Old Problems, New Trends, The Mathematical Research and Conference Center in Bedlewo, Poland, 口頭, 論文 26, 2015 年 9 月 3 日.		
60	OY. Shibata, The Global Well-Posedness for the Compressible Viscous Fluid Flow in 3D Exterior Domains, Mathflows 2015, Porquerolles, France, 論文 1, 2015 年 9 月 13 日 - 18 日.		
61	OH. Notsu, A Stabilized Lagrange-Galerkin Scheme for the Navier-Stokes Equations and Its Computation, The 12th Hirschegg Workshop on Conservation Laws, Hirschegg, Austria, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2015 年 9 月 17 日.		
62	OT. Ozawa, On the Hardy Type Inequalities, The 3rd CAU-Kyoto U. Joint Workshop on Nonlinear PDEs, Seo-gwi-po KAL hotel, Jejudo, Korea, 口頭, 2015 年 9 月 21 日 - 22 日.		
63	OM. Murata and M.Hieber, Fluid-Rigid Body Interaction Problem for Compressible Fluids, The 4th International Conference on Mathematical Theory of Turbulence via Harmonic Analysis and Computational Fluid Dynamics in 2015, Nara, Japan, 口頭, 論文 5, 2015 年 9 月 26 日.		ドイツ
64	OY. Shibata, Global Well-Posedness of Some Free Boundary Problem for the Navier-Stokes Equations in an Exterior Domain, International Conference SPP 1506 Transport Processes at Fluidic Interfaces, IRTG 1529 Mathematical Fluid Dynamics, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2015 年 10 月 5 日 - 10 月 8 日.		
65	OG. Takahashi, On Extension of Solutions to the Navier-Stokes Equations, Joint International Conference and Autumn School, Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 19, 2015 年 10 月 5 日 - 8 日.		

66	OH. Notsu and M. Tabata, Convergence Analysis of Stable and Stabilized Lagrange–Galerkin Schemes for Natural Convection Problems, Joint International Conference and Autumn School 2015, Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2015 年 10 月 7 日.		
67	OH. Koba, On L^3 –Stability of the Navier–Stokes System in Exterior Domains, International Conference SPP 1506 Transport Processes at Fluidic Interfaces and IRTG1529 Mathematical Fluid Dynamics JGGE, Department of Mathematics, Technical University of Darmstadt, Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 22, 2015 年 10 月 8 日.		
68	OT. Ozawa, On the Hardy Type Inequalities Second Workshop on Nonlinear Dispersive Equations IMECC–UNICAMP, Campinas, Brazil, 口頭, 2015 年 10 月 6 日 – 9 日.		
69	OS. Uchiumi and M. Tabata, Numerical Computation of the Navier–Stokes Equations by a Lagrange–Galerkin Scheme with a Locally linearized Velocity, JSST2015 (The 34th JSST Annual Conference; International Conference on Simulation Technology), Toyama International Conference Center, Toyama, Japan, 口頭, 論文 35, 2015 年 10 月 13 日.		
70	OS. Uchiumi, An Exactly Implementable Lagrange–Galerkin Scheme for the Navier–Stokes Equations and Its Computation, IRTG 1529 Seminar, Technische Universitat Darmstadt, Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 35・36, 2015 年 11 月 3 日.		
71	OS. Enomoto, On Asymptotic Behavior of Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation in a Periodic Layer, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Waseda Univ., 口頭, 2015 年 11 月 10 日 – 13 日.		
72	OH. Notsu, Error Estimates of Lagrange–Galerkin Schemes for Flow Problems, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Waseda University, Tokyo, 口頭, 論文 4・6・7・9・14・15・16, 2015 年 11 月 11 日.		
73	OM. Murata and M.Hieber, Fluid–Rigid Body Interaction Problem for Compressible Fluids, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 5, 2015 年 11 月 12 日.		ドイツ
74	OH. Notsu and M. Tabata, Error Estimates of a Stabilized Lagrange–Galerkin Scheme for an Oseen–Type Diffusive Peterlin Model, International Conference CoMFoS15: Mathematical Analysis of Continuum Mechanics and Industrial Applications, Kyushu University, Fukuoka, 口頭, 論文 3・15・25・24, 2015 年 11 月 18 日.		
75	OG. Takahashi, Partial Regularity and Extension of Solutions to the Navier–Stokes Equations, Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, Kyoto, Japan, 口頭, 論文 19, 2015 年 11 月 18 日.		
76	OH. Kozono, Hadamard Variational Formula for Eigenvalues of the Stokes Equations and its Application, Harmonic Analysis and its Applications in Tokyo 2015, Waseda University, 口頭, 2015 年 11 月 27 日.		
77	OH. Notsu, A Lagrange–Galerkin Scheme for a Diffusive Oldroyd–B Viscoelastic Fluid, Second Joint Workshop of China–Japan–Korea A3 Foresight Program, Xiamen University, China, 口頭, 論文 3・15・25・24, 2015 年 11 月 27 日.		

78	OK. Tsuda, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes-Korteweg System on the Whole Space, International Workshop on the Multi-Phase Flow; Analysis, Modelling and Numerics, Waseda Univ., 口頭, 2015 年 11 月 10 日 - 13 日.		
79	OS. Enomoto, On Asymptotic Behavior of Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equation in a Periodic Layer, IRTG Seminar, TU Darmstadt, 口頭, 2015 年 12 月 1 日.		
80	OD. Noboriguchi, On a Time-Splitting Method for Degenerate Parabolic Stochastic Partial Differential Equations, The 12th Japanese-German International Workshop on Math. Fluid Dynamics, Waseda Univ., Japan, 2015 年 12 月 25 日.		
81	OK. Tsuda, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes-Korteweg System on R^3 , Korea-Japan Workshop on Nonlinear Partial Differential Equations, Invited talk, Ulsan National Institute of Science and Technology, Korea, 口頭, 2015 年 12 月.		
82	OY. Shibata, Two Phase Problems for Viscous Fluids, Classic and Stochastic Geometric Mechanics, Winter School at Imperial College, London, 口頭, 2016 年 1 月 4 日 - 1 月 7 日.		
83	S. Maryani and OH. Saito, Some linearized Problem Arising from the Navier-Stokes Equations with Free Surfaces, UK-Japan Winter School, Classic and Stochastic Geometric Mechanics, Imperial College London, UK, 口頭, 2016 年 1 月 5 日.		
84	OS. Uchiumi and M. Tabata, Exactly Computable Lagrange-Galerkin Schemes for Flow Problems, WONAPDE2016 (Fifth Chilean Workshop on Numerical Analysis of Partial Differential Equations), Universidad de Concepcion, Concepcion, Chile, 口頭, 論文 35, 2016 年 1 月 15 日.		
85	OT. Kato, The Global Well-Posedness for the Generalized Zakharov-Kuznetsov Equations on Modulation Spaces, The 8th Nagoya Workshop on Differential Equations, Nagoya University, Japan, 口頭, 論文 21, 2016 年 2 月 23 日 - 24 日.		
86	OS. Enomoto, On Asymptotic Behavior of Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equations in an Infinite Layer Under Slip Boundary Condition, The 12th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda Univ., 口頭, 2016 年 3 月 1 日 - 4 日.		
87	OS. Uchiumi, Exactly Computable Lagrange-Galerkin Schemes and Their Numerical Results, The 12th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 35-36, 2016 年 3 月 2 日.		
88	OG. Takahashi, On Partial Regularity and Extension of Solutions to the Navier-Stokes Equations, The 12th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda, Japan, 口頭, 2016 年 3 月 3 日.		
89	ON. Mori, Global Existence and Decay Property of the Timoshenko-Cattaneo System, JSPS-DFG Japanese-German Graduate Externship, The 12th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 論文 32, 2016		

	年 3 月 4 日.		
90	OG. Takahashi, Partial Regularity and Extension of Solutions to the Navier–Stokes Equations, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda, Japan, 口頭, 2016 年 3 月 8 日.		
91	OH. Kozono, New a Priori Estimate of the 3D Navier–Stokes Equations and its Application to the Liouville–Type Theorem, The 16th International Conference, Graduate School of Mathematics, Navier–Stokes Equations and Related Topics, Nagoya University, 口頭, 2016 年 3 月 9 日.		
92	OT. Ozawa, Life Span of Solutions to Nonlinear Schrödinger Equations on Torus Workshop on Partial Differential Equations Zhejiang Normal University, China, 口頭, 2016 年 3 月 24 日 – 27 日.		
93	OT. Ozawa, Quadratic Interactions in Dispersive Systems Centre International de Rencontres Mathématiques (CIRM), Recent Trends in Nonlinear Evolution Equation, CENTRE INTERNATIONAL DE RENCONTRES MATHÉMATIQUES, Marseille, France, 口頭, 2016 年 4 月 4 日 – 8 日.		
94	OK.Tsuda, Soft Actuators with Nanosheet Liquid Crystals, The 1st FIT–ME Symposium, Fukuoka Institute of Technology Uni., ポスター, 2016 年 5 月 16 日.		
95	OT. Kumagai, A Perturbation Problem Involving Singular Perturbations of Domains for Hamilton–Jacobi Equations, HJ2016: Hamilton–Jacobi Equations: New Trends and Applications, INSA Rennes, France, ポスター, 2016 年 5 月 31 日.		
96	OH. Kozono, New Helmholtz Decomposition in L^r and its Application to the 3D Navier–Stokes Equations, Colloquium Talk at Dep. Math. NYU Shanghai, China, 口頭, 2016 年 6 月 9 日.		
97	OH. Kozono, New a Priori Estimate of the 3D Navier–Stokes Equations and its Application to the Liouville Type Theorem, International Workshop on Nonlinear Partial Differential Equations and Applications, NYU Shanghai, China, 口頭, 2016 年 6 月 14 日.		
98	OT. Kemmochi, Discrete Maximal Regularity and the Finite Element Method for Parabolic Problems, EASIAM 2016, University of Macau, Macau, China, 口頭, 2016 年 6 月 20 日.		
99	OH. Kozono, Navier–Stokes Equations with External Forces in Time–Weighted Besov Spaces. International Conference on Navier–Stokes Equations and Related PDEs In Honor of the 60th Birthday of Prof. Hi Jun Choe, CAMP, NIMS, Daejeon, Korea, 口頭, 2016 年 6 月 23 日.		
100	OT. Ozawa, Life Span of Solutions to Nonlinear Schrödinger Equations on Torus International Conference on Navier–Stokes Equations and Related PDEs : In Honor of the 60th Birthday of Professor Hi Jun Choe, NIMS Korea•Daejeon, 口頭, 2016 年 6 月 25 日.		
101	OH. Kozono, New a Priori Estimate of the 3D Navier–Stokes Equations and its Application to the Liouville–type theorem, The 7th Pacific RIM Conference on Mathematics, Seoul National University, Korea, 口頭, 2016 年 6 月 30 日.		

102	OT. Kato, Global Well-Posedness for the 2D Generalized Zakharov--Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, Harmonic Analysis and Nonlinear Partial Differential Equations (RIMS Symposium), Kyoto University, Japan, 口頭, 論文 21, 2016 年 7 月 4 日 - 6 日.		
103	OT. Kumagai, A Perturbation Problem Involving Singular Perturbations of Domains for Hamilton-Jacobi Equations, Workshop on Hamilton-Jacobi Equations, Fudan University, China, 口頭, 2016 年 7 月 24 日 - 30 日.		
104	ON. Mori, Mathematical Analysis for the Nonlinear Timoshenko System with Cattaneo's Law, The 2nd Wayamba International Conference (WinC 2016), Wayamba University of Sri Lanka, 口頭, 論文 32, 2016 年 8 月 19 日 - 20 日. 査読有.	○	
105	OT. Kato, Well-Posedness for the Generalized Zakharov--Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, Harmonic Analysis and Its Applications in Matsumoto 2016, Summer, Shinshu University, Japan, 口頭, 論文 21, 2016 年 8 月 24 日 - 28 日.		
106	OY. Shibata, Free Boundary Problem for the Navier-Stokes Equations, Summer School Necas Center for Mathematical Modelling, Prague, Czech Republic, 口頭, 2016 年 8 月 29 日 - 9 月 2 日.		
107	OT. Ozawa, On Landau-Kolmogorov Inequalities for Dissipative Operators Recent Topics on Dispersive Equations Chuo University, Tokyo, Japan, 口頭, 2016 年 8 月 30 日 - 31 日.		
108	OT. Ozawa, Higher Order Fractional Leibniz Estimates Nonlinear Wave and Dispersive Equations, Kyoto 2016, Kyoto University, Kyoto, Japan, 口頭, 2016 年 9 月 6 日 - 8 日.		
109	OM. Murata and Y. Shibata, The Compressible Navier-Stokes-Korteweg System in R^N , International Conference on PDE, Towards Regularity, Poland, 口頭, 2016 年 9 月 7 日.		
110	OY. Shibata, Free Boundary Problem for the Navier-Stokes Equations in an Exterior Domain, International Conference on PDE, Towards Regularity, Polish Academy of Sciences, Warsaw, Poland, 口頭, 2016 年 9 月 7 日 - 9 月 9 日.		
111	OH. Saito, A Compressible Fluid Model of Korteweg Type with Free Boundary Condition, International conference on PDE, Towards Regularity, Institute of Mathematics of the Polish Academy of Sciences, Poland, 口頭, 2016 年 9 月 8 日.		
112	OH. Kozono, Navier-Stokes Equations in Besov Spaces, International Workshop on Mathematical Science for Nonlinear Phenomena In Honor of Prof. Hisashi Okamoto on his 60th Birthday, Hotel Grand Terrace Obihiro, 口頭, 2016 年 9 月 30 日.		
113	OH. Kozono, New a Priori Estimate of the 3D Navier-Stokes Equations and its Application to the Liouville Type Theorem, Workshop on New Trends in Partial Differential Equations, Centro De Giorgi in Pisa, Italy, 口頭, 2016 年 10 月 3 日.		
114	OT. Ozawa, Uncertainty Relations In the Framework of Equalities New Trends in Partial Differential Equations Centro di Ricerca Matematica Ennio De Giorgi, Pisa, Italy, 口頭, 2016 年 10 月 3 日 - 7 日.		

115	○Y. Shibata, On Some Free Boundary Problem for the Viscous Fluid Flow, International Workshop on New Trends in Partial Differential Equations, Centro De Giorgi, Scuola Normale, Pisa, Italy, 口頭, 2016 年 10 月 3 日 - 10 月 7 日.		
116	○T. Ozawa, Uncertainty Relations In the Framework of Equalities International Conference for the 70th Anniversary of Korean Mathematical Society Seoul National University, Korea, Seoul, 口頭, 2016 年 10 月 20 日 - 23 日.		
117	○T. Kemmochi. Discrete Maximal Regularity and Its Application to the Finite Element Method, IRTG Seminar, TU Darmstadt, Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 10 月 27 日.		
118	○S. Enomoto, The Stability of Space-Time Periodic Solution to the Compressible Navier-Stokes Equation, IRTG Seminar, TU Darmstadt, 口頭, 2016 年 11 月 3 日.		
119	○H. Saito, Free Boundary Problem of a Compressible Fluid Model of Korteweg Type, International Workshop on the Multi-Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Waseda University, Japan, 口頭, 2016 年 11 月 10 日.		
120	○H. Koba, On Derivation of Incompressible Fluid Systems with Heat Equation, RIMS Workshop on Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, RIMS Kyoto University, 口頭, 2016 年 11 月 16 日.		
121	○S. Maryani, Global Well-Posedness for Free Boundary Problem of the Oldroyd-B Model Fluid Flow, RIMS Workshop on Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, Kyoto University, Japan, 口頭, 2016 年 11 月 16 日 - 18 日.		
122	○S. Enomoto, Large Time Behavior of Solutions to Compressible Navier-Stokes Equation Around Space-Time Periodic Solution, The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda Univ., 口頭, 2016 年 11 月 30 日 - 12 月 2 日.		
123	○Y. Kaneko, Numerical Example of a Free Boundary Problem Modeling the Spreading of Species, Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Darmstadt, Germany, 口頭, 論文 29, 2016 年 11 月 30 日 - 12 月 2 日.		
124	○T. Kumagai, A Perturbation Problem Involving Singular Perturbations of Domains for Hamilton-Jacobi Equations, The 13-th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Technische Universität Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 11 月 30 日.		
125	○T. Ozawa, Remarks on the Rellich Inequality The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Technical University Darmstadt, Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 11 月 30 日 - 12 月 2 日.		
126	○G. Takahashi, On Partial Regularity and Extension of Solutions to the Navier-Stokes Equations, The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 11 月 30 日.		
127	○N. Kajiwara, On a Resolvent Estimate for Bidomain Operators, The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 1 日.		

128	○Suma'inna, The Existence of R-Bounded Solution Operators of The Thermoelastic Plate Equation With Dirichlet Boundary Conditions, The 13th German-Japanese International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 1 日.		
129	○T. Kemmochi, Discretization of Maximal Regularity and Its Application to the Finite Element Method, The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Darmstadtium, Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 2 日.		
130	○H. Saito, Compressible Fluid Model of Korteweg Type with Free Boundary Condition: Model Problem, The 13th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 2 日.		
131	○T. Ozawa, On Landau-Kolmogorov Inequalities for Dissipative Operators, Nonlinear Partial Differential Equations and Mathematical Physics Workshop, Tsinghua Sanya International Mathematics Forum, Sanya, China, 2016 年 12 月 5 日 - 9 日.		
132	○T. Kumagai, A Perturbation Problem Involving Singular Perturbations of Domains for Hamilton-Jacobi Equations, IRTG Seminar, Technische Universität Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 8 日.		
133	○Suma'inna, R-Bounded Solution Operators of the Thermoelastic Plate Equation, IRTG Seminar, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2016 年 12 月 8 日.		
134	○H. Koba, On Fluid Flow on an Evolving Surface, 2016 NCTS Workshop on Complex and Biological Fluid Dynamics with Applications, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, 口頭, 2016 年 12 月 20 日.		
135	○K. Tsuda, Basic Study of Soft Actuator Using Anisotropic Gel Hybridized with Nanosheet Liquid Crystal: Analysis of Heat Characteristics and Length Control, IEEE International Symposium on Robotics and Intelligent Sensors, Tokyo, 口頭, 2016 年 12 月 17 日 - 20 日.		
136	○M. Murata and Y. Shibata, The Global Well-Posedness for the Compressible Fluid Model of Korteweg Type, Mathflows2017, Będlewo, Poland, 口頭, 2017 年 1 月 20 日.		
137	○H. Kozono, Strong Solutions of the Navier-Stokes Equations Based on the Maximal Lorentz Regularity Theorem in Besov Spaces, Oberseminar Angewante Mathematik der Technische Universitaet Darmstadt, Germany, 口頭, 2017 年 1 月 26 日.		
138	○T. Ozawa, On Landau-Kolmogorov Inequalities for Dissipative Operators, Critical Exponents and Nonlinear Evolution Equation 2017, Tokyo University of Science, Tokyo, Japan, 口頭, 2017 年 2 月 20 日.		
139	○K. Tsuda, Time Periodic Problem of The Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, Invited talk, The Chinese University of Hong Kong, 口頭, 論文 11, 2017 年 3 月 1 日.		

140	OH. Koba, Energetic Variational Approaches for PDEs, HeKKSaGOn Working Group Seeds in Mathematics Versus Needs Outside Mathematics Winter School in Osaka 2017, Osaka University, Osaka, Japan, 口頭, 2017 年 3 月 6 日.		
141	OS. Enomoto, Asymptotic Behavior of Solutions to Compressible Navier–Stokes Equation Around Space–Time Periodic States, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda Univ., 口頭, 2017 年 3 月 8 日 – 10 日.		
142	OT. Kemmochi, Error Estimate for the Finite Element Semi–Discretization of the Nonstationary Hydrostatic Stokes Equation, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 30, 2017 年 3 月 9 日.		
143	OS. Uchiumi, A Lagrange–Galerkin Scheme for High–Reynolds–Number Flow Problems, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 2017 年 3 月 9 日.		
144	OSuma’inna, The Existence of R–Bounded Solution Operators of The Thermoelastic Plate Equation With Dirichlet Boundary Conditions, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 2017 年 3 月 10 日.		
145	ON. Mori and R. Racke, Global Existence and Optimal Decay of Solutions in the Critical Sobolev Space to the Nonlinear Timoshenko–Cattaneo System, German–Japanese Workshop on Partial Differential Equations, University of Konstanz, Germany, 口頭, 論文 32, 2017 年 3 月 16 日.		ドイツ
146	OT. Ozawa, Hardy Inequalities in $L^p(\mathbb{R}^n)$ Zhejiang–Tohoku International Workshop for Nonlinear Partial Differential, Tohoku University, Miyagi, Japan, 口頭, 2017 年 3 月 16 日 – 18 日.		
147	OT. Kumagai, A Class of Hamilton–Jacobi Equations and Ode Systems on Graphs, The 14th Japanese–German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, 口頭, 2017 年 3 月 30 日.		
148	OK.Tsuda, Time Periodic Problem of the Compressible Navier–Stokes Equation on the Whole Space, HeKKSaGOn Osaka Winter School, Osaka, 口頭, 論文 11, 2017 年 3 月 2 日 – 12 日.		
149	ON. Mori and R. Racke, Mathematical Analysis in the Critical Space for the Nonlinear Timoshenko–Cattaneo System, Kyushu Univ.–POSTECH–SJTU Joint Workshop on PDEs and Related Topics, POSTEC, Korea, 口頭, 論文 32, 2017 年 4 月 14 日.		ドイツ
150	OY. Teramoto, On the Stability of Stationary Solutions of the Artificial Compressible System, –POSTECH–SJTU(KPS) Workshop on PDEs and Related Topics, Kyushu Univ., Japan, 口頭, 2017 年 4 月 14 日 – 16 日.		

151	○Y. Shibata, Global Well-Posedness for One Phase and Two Phase Problems for the Navier-Stokes Equations in Unbounded Domains, Geophysical Fluid Dynamics, Mathematical Research Institute of Oberwolfach, Germany, 口頭, 2017 年 5 月 7 日 - 5 月 13 日.		
152	○H. Kozono, Finite Energy for the Navier-Stokes Equations and Liouville-Type Theorems, Conference on Vorticity, Rotation and Symmetry (IV) Complex Fluids and the Issue of Regularity, CIRM (Luminy), France, 口頭, 2017 年 5 月 8 日.		
153	○Y. Shibata, Local and Global Wellposedness of Two Component Flow, Darmstadt Analysis Day 2017, Technical University of Darmstadt, Germany, 2017 年 5 月 16 日.		
154	○Suma'inna, The Existence of R-Bounded Solution Operators of the Thermoelastic Plate Equation with Dirichlet Boundary Conditions, IRTG Seminar, TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2017 年 5 月 30 日.		
155	T. Kashiwabara and ○T. Kemmochi, L^∞ -Error Estimates for the Finite Element Method of Parabolic Problems on Domains with Smooth Boundaries, The Third International Conference on Engineering and Computational Mathematics (ECM2017), The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China, 口頭, 2017 年 6 月 1 日.		
156	○T. Kato, The Inclusion Relations Between α -Modulation Spaces and L^p -Sobolev Spaces, The 5th East Asian Conference in Harmonic Analysis and Its Applications, Zhejiang University of Science and Technology, China, 口頭, 2017 年 6 月 9 日 - 13 日.		
157	○T. Kemmochi, Energy Dissipative Numerical Schemes for Gradient Flows of Planar Curves, SIAM East Asian Section Conference 2017 (EASIAM2017), Seoul National University, Seoul, Korea, 口頭, 2017 年 6 月 23 日.		
158	○T. Kumagai, Hamilton-Jacobi Equations with Large Drift Term and Ode Systems on Graphs, Viscosity Solution Approach to Asymptotic Problems in Front Propagation, Dynamical System and Related Topics, Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, 口頭, 2017 年 7 月 3 日 - 5 日.		
159	○Y. Shibata, Two Phase Problem for the Navier-Stokes Equations, RIMS Workshop on Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS, Kyoto University, 口頭, 2017 年 7 月 5 日 - 7 日.		
160	○Y. Teramoto, Bifurcation of Taylor Vortex for Compressible Navier-Stokes Equations, RIMS Workshop Mathematical Analysis in Fluid and Dynamics, Japan, 口頭, 2017 年 7 月 5 日 - 7 日.		
161	○H. Saito, On a Compressible Fluid Model of Korteweg Type, RIMS Workshop on Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS, Kyoto University, Japan, 口頭, 2017 年 7 月 6 日.		
162	○K. Tsuda, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on Two-Dimensional Whole Space, Nonlinear Partial Differential Equations for Future Applications, Tohoku Univ., 口頭, 2017 年 7 月 24 日 - 28 日.		

163	OH. Notsu, Numerical Analysis of the Oseen-Type Peterlin Viscoelastic Model, The 42nd Sapporo Symposium on Partial Differential Equations, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 口頭論文 3・15・25・24, 2017 年 8 月 9 日.		
164	OS. Maryani, R-Boundedness of Solution Operator Families for Compressible Fluid Flow of the Oldroyd-B Model in Half-Space with Surface Tension, International Conference on Research and Education in Mathematics, Bandung Institute of Technology (ITB), Indonesia, 口頭, 2017 年 8 月 11 日 - 13 日.		
165	OT. Kato, The Cauchy Problem for the Generalized Zakharov-Kuznetsov Equation in Modulation Spaces, ISAAC 2017, Linnaeus University, Sweden, 口頭, 論文 21, 2017 年 8 月 14 日 - 18 日.		
166	OM. Murata and Y. Shibata, Decay Estimates of Solutions for the Navier-Stokes-Korteweg System in R^N , International Conference, The last 60 years of Mathematical Fluid Mechanics: Longstanding Problems and New Perspectives, Lithuania, 口頭, 2017 年 8 月 21 日.		
167	OT. Ozawa, Lifespan of Periodic Solutions to Nonlinear Schrödinger Equations, RIMS Workshop Nonlinear Wave and Dispersive Equations, Kyoto University, Kyoto, Japan, 口頭, 2017 年 8 月 30 日.		
168	OH. Koba, On the Helmholtz-Weyl Decomposition on Surfaces and Its Application to Fluid Dynamics, 2017 Fall Program on Analysis of PDE (Topic: Incompressible Navier-Stokes Equations), Fudan University, Shanghai, China, 口頭, 2017 年 9 月 12 日.		
169	ON. Kajiwara, On the Bidomain Equations as Parabolic Evolution Equations, Theory of Evolution Equation and Mathematical Analysis of Nonlinear Phenomena, Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, Japan, 口頭, 2017 年 10 月 18 日.		
170	OH. Tsurumi, Ill-Posedness of the Stationary Navier-Stokes Equations in Besov Spaces, IRTG Seminar, at TU Darmstadt, Germany, 口頭, 2017 年 10 月 26 日.		
171	OS. Enomoto, Stability of Space-Time Periodic Solution to the Compressible Navier-Stokes Equation in an Infinite Layer, The sixth Japan-China Workshop on Mathematical Topics from Fluid Mechanics, Osaka Univ., 口頭, 2017 年 10 月 29 日 - 31 日.		
172	OH. Koba, On Derivation of Compressible Fluid Systems on an Evolving Surface, The sixth Japan-China Workshop on Mathematical Topics from Fluid Mechanics, Osaka University, Osaka, Japan, 口頭, 2017 年 10 月 29 日.		
173	ON. Mori and R. Racke, Mathematical Analysis for the Nonlinear Timoshenko-Cattaneo System, The sixth Japan-China Workshop on Mathematical Topics from Fluid Mechanics, Osaka University, Japan, 口頭, 論文 32, 2017 年 10 月 31 日.		ドイツ
174	OK. Tsuda, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, The Sixth Japan-China Workshop on Mathematical Topics from Fluid Mechanics, Osaka Univ., 口頭, 論文 11, 2017 年 10 月 29 日 - 31 日.		

175	OK. Furukawa, Asymptotic Stability of Small Oseen Type Navier–Stokes Flow Under 3–D Large Perturbation, Princeton–Tokyo Fluid Mechanics Workshop, Princeton University, USA, 口頭, 2017 年 11 月 7 日 – 9 日.		
176	OT. Ozawa, Blowup Solutions for the Derivative Nonlinear Schrödinger Equation on Torus, Recent Topics on PDEs, Chuo University, Tokyo, Japan, 口頭, 2017 年 11 月 17 日.		
177	OH. Kozono, Finite Energy for the Navier–Stokes Equations and Liouville–Type Theorems, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Waseda University, 口頭, 2017 年 11 月 28 日.		
178	OM. Murata and Y. Shibata, The Global Well–Posedness for the Compressible Fluid Model of Korteweg Type, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Tokyo, Japan, 口頭, 2017 年 11 月 29 日.		
179	OH. Saito, Local Solvability of the Navier–Stokes–Korteweg System on General Domains, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modeling and Numerics, Waseda University, Japan, 口頭, 2017 年 11 月 29 日.		
180	OK. Tsuda, Time Decay Estimate with Diffusive Property and Smoothing Effect for Solution to the Compressible Navier–Stokes–Korteweg System, International Workshop on the Multi–Phase Flow; Analysis, Modelling and Numerics, Invited talk, Waseda Univ., 口頭, 2017 年 11 月 28 日 – 12 月 1 日.		
181	OK. Furukawa, Asymptotic Stability of Oseen Type Navier–Stokes Flow Under Large Perturbation, RIMS Workshop on Mathematical Analysis of Viscous Incompressible Fluid, Kyoto University, Japan, 口頭, 2017 年 12 月 6 日 – 8 日.		
182	OH. Notsu, A Structure–Preserving Finite Element Scheme for the Maxwell Model, A3 Soft Matter Workshop, Daejeon, Korea, 口頭, 論文 3・15・25・24, 2017 年 12 月 21 日.		
183	OT. Kato, Well–Posedness for the 3D Generalized Zakharov–Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, 2017 Taiwan–Japan Workshop on Dispersion, Navier Stokes, Kinetic, and Inverse Problems, National Cheng Kung University, Taiwan, 口頭, 論文 21, 2017 年 12 月 22 日 – 25 日.		
184	OK. Tsuda, Diffusive Wave Property and Smoothing Effect for Solution to the Compressible Navier–Stokes–Korteweg System, 2017 PNU Math Forum, Invited talk, Pusan National Univ., Korea, 口頭, 2017 年 12 月.		
185	OK. Tsuda, Time Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes Equation on the Two Dimensional Whole Space with Antisymmetry, 2017 Taiwan–Japan Workshop on Dispersion, Navier Stokes, Kinetic, and Inverse Problems, Invited talk, National Cheng Kung Univ., Tainan, 口頭, 論文 11, 2017 年 12 月 22 日 – 25 日.		
186	OH. Kozono, Strong Solutions of the Navier–Stokes Equations Based on the Maximal Lorentz Regularity Theorem in Besov Spaces, The 26th Annual Meeting on Differential Equations and Related Topics Taiwan National University, 口頭, 2018 年 1 月 7 日.		

187	OK. Furukawa, Asymptotic Stability of the three-Dimensional Oseen Vortex, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
188	ON. Kajiwara, Well-Posedness for the Phase-Field Navier-Stokes Equations in the Maximal Regularity Space, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 論文 28, 2018 年 1 月 9 日.		
189	OH. Koba, On the Helmholtz-Weyl Decomposition on Surfaces and Its Application to Multiphase Flow, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan 口頭, 2018 年 1 月 9 日.		
190	OK. Nakao, Beale-Kato-Majda Type Extension Criterion of Smooth Solutions to the Navier-Stokes Equations, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
191	OY. Shibata, Maximal Regularity and Free Boundary Problem for the Navier-Stokes Equation, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
192	OY. Teramoto, On the Spectrum of Linear Artificial Compressible System, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
193	OH. Tsurumi, Well-Posedness and Ill-Posedness of the Stationary Navier-Stokes Equations in Triebel-Lizorkin Spaces, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, at Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
194	OK. Watanabe, Maximal Regularity Theorem of Compressible-Incompressible Two-Phase Flows with Phase Transitions, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日.		
195	OM. Kunimoto, Modeling and Spectroscopic Analysis of the Liquid-Liquid Extraction of Boric Acid in Micro Channel Devices, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University Tokyo, Japan, 口頭, 論文 31, 2018 年 1 月 10 日.		
196	OM. Murata and Y. Shibata, Decay Estimates of Solutions for the Navier-Stokes-Korteweg System in R^N , The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 10 日.		
197	OH. Saito, Maximal Regularity for the Navier-Stokes-Korteweg System and Its Application, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 10 日.		
198	O'Suma'inna, On Some Nonlinear Problem for the Thermoelastic Plate Equations, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 10 日.		

199	OS. Uchiumi, A Pressure-Stabilized Finite Element Method with Higher-Order Elements, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 10 日.		
200	OM. Higaki, On Fast Rotating Time-Periodic Flows In a Two-Dimensional Cylindrical Domain, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 9 日 - 12 日.		
201	ON. Kajiwara, Introduction to the Maximal L^p -regularity and Its Applications to the Quasi-Linear Parabolic Equations, FMSP Tokyo-Princeton Joint Student Seminar, The University of Tokyo, Japan, 口頭, 論文 28, 2018 年 1 月 16 日.		
202	OH. Notsu, Numerical Analysis of Viscoelastic Models, Mini-Symposium on Complex Flows: Dynamics of Viscoelastic and Inertioelastic Flows, OIST, Okinawa, Japan, 口頭, 論文 3・15・25・24, 2018 年 1 月 20 日.		
203	OT. Ozawa, Lifespan of Periodic Solutions to Derivative Nonlinear Schrödinger Equations Nonlinear Dispersive Equations in Kumamoto, 2018, Kumamoto University, Kumamoto, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 20 日.		
204	OK. Tsuda, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, Invited Seminar Talk, Peking University, China, 論文 11, 2018 年 1 月 17 日.		
205	OT. Ozawa, Lifespan of Blowup Solutions to the Nonlinear Schrödinger Equations on Torus, Hyperbolic Partial Differential Equations and Related Topics-In Honor of the 60th Birthday of Professor Tokio Matsuyama, Chuo University, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 1 月 27 日.		
206	OK. Tsuda, Diffusive Wave Property and Smoothing Effect for Solution to the Compressible Navier-Stokes-Korteweg Equation, The 15th Japanese-German International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Waseda University, 2018 年 1 月 9 日-12 日.		
207	ON. Kajiwara, Global-Wellposedness for the Cahn-Hilliard Equation in Bounded Domains with Permeable and Non-Permeable Walls, The 19th Northeastern Symposium on Mathematical Analysis, Hokkaido University, Japan, ポスター, 2018 年 2 月 19 日.		
208	OH. Notsu, Numerical Analysis and Computation of Viscoelastic Models, Numerical Analysis: Applications to Biomedical Problems and Foundations, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 口頭, 論文 3・15・25・24, 2018 年 2 月 21 日.		
209	OS. Uchiumi, A Pressure-Stabilized FEM Using Higher-Order Elements with Application to Some Channel Flows, Numerical Analysis: Applications to Biomedical Problems and Foundations, Graduate School of Mathematical Sciences, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 2 月 21 日.		
210	OT. Ozawa, On Improved Hardy Inequalities, Workshop on Harmonic Analysis and Nonlinear Evolution Equations, Aula Magna and Sala Seminari, Department of Mathematics, Pisa, Italy, 口頭, 2018 年 2 月 23 日.		

211	OS. Enomoto, Asymptotic Behavior of the Solution to the Compressible Navier–Stokes Equation Around Space–Time Periodic Flow, The 9th Taiwan–Japan Joint Workshop for Young Scholars in Applied Mathematics, National Cheng Kung Univ., 口頭, 2018 年 3 月 3 日 – 5 日.		
212	OH. Kozono, Harmonic Vector Fields in L_r on 3D Exterior Domains, Workshop on Compressible Navier–Stokes Systems and Related Problems (I), The Chinese University of Hong Kong, 口頭, 2018 年 3 月 9 日.		
213	OH. Tsurumi, Well–Posedness and Ill–Posedness of the Stationary Navier–Stokes Equations in Besov Spaces, Japanese–Indonesian International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, at Waseda University, Japan, 口頭, 2018 年 3 月 12 日 – 13 日.		
214	OK. Watanabe, On Strong Solutions for Compressible–Incompressible Two–Phase Flows with Phase Transitions, Japanese–Indonesian International Workshop on Mathematical Fluid Dynamics, Tokyo, Japan, 口頭, 2018 年 3 月 12 日 – 13 日.		
215	OS. Uchiumi, Finite Element Methods for Flow Problems with Small Viscosity and Remarks on Implementation, International Workshop on Numerical Methods for Partial Differential Equations, The Hong Kong Polytechnic University, 口頭, 2018 年 3 月 27 日.		

③国内会議・シンポジウム等における発表

・②と同様に記載してください。

整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
1	○小澤徹, 二次元領域における非線型シュレディンガー方程式の初期値問題, Seminar on Nonlinear Analysis at O-Okayama 非線形解析セミナー, 東京工業大学大岡山キャンパス 西 8 号館 W 棟 11 階 W1101 号室, 口頭, 2014 年 4 月 18 日.		
2	○小澤徹, On the Brézis–Gallouët Technique Nagoya Differential Equations Seminar, 名古屋大学, 口頭, 2014 年 5 月 26 日.		
3	○津田和幸, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes Equation on the Whole Space, 熊本大学応用解析セミナー, 熊本大学, 口頭, 論文 11, 2014 年 6 月 21 日.		
4	○小澤徹, On the Brézis–Gallouët Technique, PDE Seminar, 微分方程式セミナー, 北海道大学理学部 3 号館 3–309 室, 口頭, 2014 年 6 月 23 日.		
5	○加藤睦也, The Global Cauchy Problems for Nonlinear Dispersive Equations with Polynomial Symbols, 第 36 回発展方程式若手セミナー, 休暇村南阿蘇, 口頭, 論文 10, 2014 年 8 月 28 日 – 31 日.		
6	○森直文, 記憶型の消散構造をもつ Timoshenko 系の減衰特性, 第 36 回発展方程式若手セミナー, 休暇村南阿蘇, 口頭, 2014 年 8 月 30 日.		

7	○村田美帆, M. Hieber, 圧縮性粘性流体と剛体の連成問題に対する時間局所解の一意存在性, 第 36 回発展方程式若手セミナー, 熊本, 口頭, 論文 5, 2014 年 8 月 30 日.		ドイツ
8	○津田和幸, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, 第 36 回発展方程式若手セミナー, 休暇村南阿蘇, 口頭, 論文 11, 2014 年 8 月 28 日 - 31 日.		
9	○内海晋弥, 田端正久, Navier-Stokes 方程式のための数値積分誤差を伴わない特性曲線有限要素法, 日本応用数学会 2014 年度年会, 政策研究大学院大学, 口頭, 論文 35, 2014 年 9 月 4 日.		
10	○小澤徹, 古典場の理論に現れる非線型波動方程式, 中央大学理工学部数学教室 Encounter with Mathematics 62 波動方程式 - 古典物理から相対論まで, 中央大学理工学部-, 口頭, 2014 年 9 月 15 日.		
11	○登口大, 確率保存型方程式に対する非斉次 Dirichlet 問題の解の存在定理, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学, 口頭, 2014 年 9 月 28 日.		
12	○小藺英雄, 非圧縮性ナビエ・ストークス方程式の定常・非定常流の調和解析的研究, 2014 年度日本数学会秋季総合分科会 (口頭, 2014 年度日本数学会秋季賞・総合講演), 広島大学, 口頭, 2014 年 9 月 26 日.		
13	○森直文, Global Existence and Energy Decay of Solutions of the Nonlinear Timoshenko System with Memory, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学, 口頭, 2014 年 9 月 27 日.		
14	○森直文, 川島秀一, Decay Property for the Timoshenko System with Thermal Effects: Cattaneo versus Fourier's Law, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学, 口頭, 2014 年 9 月 27 日.		
15	○村田美帆, 柴田良弘, 圧縮性粘性流体に対する時間大域解の一意存在性, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学, 口頭, 2014 年 9 月 27 日.		
16	○齋藤平和, 柴田良弘, Global Well-Posedness of a Free Boundary Problem for the Navier-Stokes Equations in the L_p - L_q Framework, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学, 口頭, 論文 17, 2014 年 9 月 27 日.		
17	○内海晋弥, 田端正久, Navier-Stokes 方程式のための数値積分誤差を伴わない特性曲線有限要素スキームの解析, 日本数学会 2014 年度秋季総合分科会, 広島大学東広島キャンパス, 口頭, 論文 35, 2014 年 9 月 28 日.		
18	○内海晋弥, 田端正久, Navier-Stokes 方程式のための数値積分誤差を伴わない特性曲線有限要素法とその応用, 2014 年度 RIMS 研究集会, 新時代の科学技術を牽引する数値解析学, 京都大学, 口頭, 論文 35・36, 2014 年 10 月 9 日.		
19	○小藺英雄, D-Solutions of the Stationary Navier-Stokes Equations Past an Obstacle, 広島微分方程式研究会, 広島大学, 口頭, 2014 年 10 月 11 日.		
20	○小藺英雄, Leray's Problems on D-Solutions to the Navier-Stokes Equations Past an Obstacle, 応用解析研究会, 早稲田大学, 口頭, 2014 年 10 月 18 日.		

21	○津田和幸, 全空間上の圧縮性 Navier-Stokes 方程式の時間周期問題について, 京都大学 NLPDE セミナー, 京都大学, 口頭, 論文 11, 2014 年 10 月.		
22	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Whole Space, 神戸大学解析セミナー, 神戸大学, 口頭, 論文 11, 2014 年 10 月.		
23	○小藺英雄, Large Solutions and Their Stability of the Stationary Navier-Stokes Equations in 3D Multi-Connected Domains, 金沢解析セミナー, 金沢大学, 口頭, 2014 年 11 月 28 日.		
24	○小藺英雄, Stability of Large Solutions to the Stationary Navier-Stokes equations in 3D Multi-Connected Domains, 北海道大学偏微分方程式セミナー, 北海道大学, 口頭, 2014 年 12 月 15 日.		
25	○小澤徹, Quadratic Interactions in Dispersive Systems, 微分方程式の総合的研究, 京都大学理学部, 口頭, 2014 年 12 月 20 日.		
26	○高橋剛, ナヴィエ・ストークス方程式の時間局所解に対する延長定理, 第 40 回発展方程式研究会, 日本女子大学目白キャンパス, 口頭, 2014 年 12 月 25 日.		
27	○津田和幸, 全空間上の圧縮性 Navier-Stokes 方程式の時間周期問題について, 第 40 回発展方程式研究会, 日本女子大学, 口頭, 論文 11, 2014 年 12 月 26 日.		
28	○齋藤平和, 柴田良弘, 表面張力と重力を伴うストークス方程式の解の減衰について, 若手による流体力学の基礎方程式の研究集会, 名古屋大学, 口頭, 論文 17, 2015 年 1 月 5 日.		
29	○村田美帆, 柴田良弘, On the Local and Global Well-Posedness for the Compressible Navier-Stokes Equations, 第 40 回流体数学セミナー, 東京, 口頭, 2015 年 1 月 9 日.		
30	○小藺英雄, Stability of the Large Stationary Solutions to the Navier-Stokes Equations under the General Flux Condition, 第 4 回岐阜数理科学研究会, 飛騨地域地場産業振興センター, 口頭, 2015 年 1 月 19 日.		
31	○齋藤平和, 柴田良弘, 非圧縮性 Navier-Stokes 方程式の自由境界値問題, 若手のための偏微分方程式と数学解析, 福岡大学, 口頭, 論文 17, 2015 年 2 月 9 日.		
32	○津田和幸, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes-Korteweg System on the Whole Space, 第 132 回日本数学会九州支部例会, 福岡大学, 口頭, 2015 年 2 月 14 日.		
33	○内海晋弥, 特性曲線有限要素法の理論と応用, 第 12 回城崎新人セミナー, 城崎市民センター, 口頭, 論文 18, 2015 年 2 月 17 日.		
34	○森直文, Global Existence and Optimal Decay of Solutions to the Dissipative Timoshenko System, 第 132 回日本数学会九州支部例会, 第 3 回九州若手数学賞受賞講演, 福岡大学, 口頭, 2015 年 2 月 24 日.		
35	○M. Hieber, H. Saito, Strong Solutions for Two-Phase Free Boundary Problems for a Class of Non-Newtonian Fluids, 日本数学会 2015 年度年会, 明治大学, 口頭, 論文 20, 2015 年 3 月 24 日.		ドイツ

36	○森直文, 川島秀一, Dissipative Structures and Nonlinear Stability for the Dissipative Timoshenko System, 日本数学会 2015 年度年会, 明治大学, 口頭, 2015 年 3 月 24 日.		
37	○村田美帆, M. Hieber, 圧縮性粘性流体と剛体の連成問題に対する時間局所解の一意存在性, 日本数学会 2015 年度年会, 明治大学, 口頭, 論文 5, 2015 年 3 月 24 日.		ドイツ
38	○津田和幸, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes-Korteweg System on the Whole Space, 日本数学会 2015 年度年会, 明治大学, 口頭, 2015 年 3 月 21 日 - 24 日.		
39	○小藺英雄, Navier-Stokes 方程式のミレニアム問題, 理工文化論, 早稲田大学理工学術院, 口頭, 2015 年 5 月 2 日.		
40	○村田美帆, 柴田良弘, Global Well-Posedness for the Compressible Navier-Stokes Equations with Slip Boundary Condition, 北海道大学・偏微分方程式セミナー, 北海道, 口頭, 2015 年 5 月 18 日.		
41	○小藺英雄, 非圧縮性粘性流体の数学的研究-数学のミレニアム問題, 数理・データ科学セミナー 数理モデルシリーズ第 1 回, 大阪大学, 口頭, 2015 年 5 月 20 日.		
42	○加藤睦也, The Inclusion Relations Between L^p -Sobolev and $W^{\alpha,p}$ -Modulation Spaces, 名古屋微分方程式セミナー, 名古屋大学, 口頭, 2015 年 6 月 8 日.		
43	○内海晋弥, 田端正久, 数値積分を使わない特性曲線有限要素法による Navier-Stokes 方程式の数値計算, 第 20 回計算工学講演会, つくば国際会議場, 口頭, 論文 35・36, 2015 年 6 月 10 日.		
44	○小澤徹, Hardy 型の不等式について (On the Hardy type inequalities), 信州大学偏微分方程式研究集会, 信州大学理学部数学科 (旧・数理自然情報科学科), 口頭, 2015 年 6 月 12 日 - 13 日.		
45	○小澤徹, Hardy 型の不等式について (On the Hardy type inequalities), Monday Analysis Seminar (No. 5), 北海道大学理学部 3 号館 210 室, 口頭, 2015 年 6 月 22 日.		
46	○小藺英雄, Navier-Stokes Equations with External Forces in Lorentz Spaces and its Applications to the Self-Similar Solution, 大阪大学微分方程式セミナー, 口頭, 2015 年 6 月 26 日.		
47	○小藺英雄, Harmonic Vector Fields and its Applications to the Stationary Navier-Stokes Equations in Multi-Connected Domains, 名古屋大学大学院多元数理科学研究科談話会, 口頭, 2015 年 7 月 1 日.		
48	○村田美帆, 柴田良弘, Global Solvability of the Compressible Navier-Stokes Equations with Slip Boundary Conditions, 第 134 回神楽坂解析セミナー, 東京, 口頭, 2015 年 7 月 25 日.		
49	○榎本翔太, Stability of Spatially Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equation in a Periodic Layer, 数学と現象 in 伊豆大島, 大島町役場大会議場, 口頭, 2015 年 7 月 29 日 - 30 日.		

50	○内海晋弥, 局所近似流速を用いた特性曲線有限要素法の理論と数値計算, 数学と現象 in 伊豆大島, 大島町役場大会議室, 口頭, 論文 35, 2015 年 7 月 30 日.		
51	○古場一, Introduction to Mathematical Modeling of Soap Bubble and Smoke in Air, The 40th Sapporo Symposium on Partial Differential Equations, Hokkaido University, 口頭, 2015 年 8 月 20 日.		
52	○榎本翔太, Stability of Spatially Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equation in a Periodic Layer, 第 37 回発展方程式若手セミナー, 小樽朝里クラッセホテル, 口頭, 2015 年 8 月 23 日 - 26 日.		
53	○小澤徹, L^p 型のハーディーの不等式について, 金沢解析研究会 2015, 金沢大学 サテライト・プラザ 3 階集会室, 口頭, 2015 年 8 月 27 日.		
54	○津田和幸, R^3 上の圧縮性 Navier-Stokes-Korteweg 方程式の時間周期問題について, 第 37 回発展方程式若手セミナー, 小樽朝里クラッセホテル, 口頭, 2015 年 8 月 23 日 - 26 日.		
55	○内海晋弥, 非定常 Stokes 方程式のための高次要素を用いた圧力安定化有限要素法とその特性曲線法への応用, 日本応用数学会 2015 年度年会 (若手の会 0S), 金沢大学角間キャンパス, 口頭, 2015 年 9 月 9 日.		
56	○小藺英雄, Navier-Stokes Equations with External Forces in Lorentz Spaces and its Application to the Self-Similar Solutions, 日本数学会秋期総合分科会函数方程式論分科会, 口頭, 2015 年 9 月 16 日.		
57	○榎本翔太, Infinite Layer の圧縮性 Navier-Stokes 方程式の空間周期定常解の安定性について, 現象解析セミナー第 8 回, 東京理科大学神楽坂キャンパス, 口頭, 2015 年 9 月 19 日 - 20 日.		
58	○榎本翔太, 隠居良行, Stability of Spatially Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equation in a Periodic Layer, 日本数学会 2015 年度秋季総合分科会, 京都産業大学, 口頭, 2015 年 9 月 23 日 - 26 日.		
59	○村田美帆, M. Hieber, 圧縮性粘性流体と剛体の連成問題に対する数学解析, 日本流体力学会年会 2015, 東京工業大学, 口頭, 論文 5, 2015 年 9 月 27 日.		ドイツ
60	○加藤睦也, Embedding Relations Between L^p -Sobolev and α -Modulation Spaces, 調和解析駒場セミナー, 東京大学, 口頭, 2015 年 10 月 3 日.		
61	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on R^2 with Sntisymmetry, 第 133 回日本数学会九州支部例会, 佐賀大学, 口頭, 2015 年 10 月 6 日.		
62	○村田美帆, M. Hieber, 圧縮性粘性流体と剛体の連成問題に対する数学解析, 九州関数方程式セミナー, 福岡, 口頭, 論文 5, 2015 年 10 月 9 日.		ドイツ
63	○榎本翔太, 周期的層状領域における圧縮性 Navier-Stokes 方程式の空間周期定常解の安定性について, 日本数学会九州支部例会, 佐賀大学本庄キャンパス, 口頭, 2015 年 10 月 24 日.		

64	○森直文 Global Existence and Optimal Decay Rates of Solutions to the Classical Timoshenko System in the Framework of Besov Spaces, 第 133 回日本数学会九州支部例会, 佐賀大学, 口頭, 2015 年 10 月 24 日.		
65	○津田和幸, 全空間上の圧縮性流体方程式の時間周期問題について, 奈良女子大学 PDE セミナー, 奈良女子大学, 口頭, 論文 11, 2015 年 10 月 27 日- 30 日.		
66	○森直文, Global Existence and Optimal Decay of Solutions with Minimal Regularity for the Classical Timoshenko System, 第 5 回室蘭非線形解析研究集会, 室蘭工業大学, 口頭, 2015 年 11 月 6 日.		
67	○小藺英雄, Hadamard Variational Formula for the Stokes Equations and its Application to the Shape of Domains, 奈良女子大学, 数学教室談話会, 口頭, 2015 年 12 月 2 日.		
68	○内海晋弥, 非定常 Stokes 方程式のための高次要素を用いた圧力安定化有限要素法と粘性係数依存性, 2015 年度応用数学合同研究集会, 龍谷大学瀬田キャンパス, 口頭, 2015 年 12 月 17 日.		
69	○榎本翔太, Stability of Periodic Stationary Solutions to the Compressible Navier-Stokes Equation in a Periodic Layer, 第 41 回発展方程式研究会, 日本女子大学目白キャンパス, 口頭, 2015 年 12 月 25 日 - 27 日.		
70	○登口大 Dai, 確率項を持つ双曲-放物型方程式に対する解の存在定理, 第 41 回 発展方程式研究会, 日本女子大学, 口頭, 2015 年 12 月 25 日.		
71	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation in Two Dimensional Case with Antisymmetry, 第 41 回発展方程式研究会, 日本女子大学, 口頭, 2015 年 12 月 25 日 - 27 日.		
72	○榎本翔太, 周期的層状領域における圧縮性 Navier-Stokes 方程式の空間周期定常解の安定性, 若手による流体力学の基礎方程式研究集会, 名古屋大学東山キャンパス, 口頭, 2016 年 1 月 6 日 - 7 日.		
73	○森直文, The Minimal Decay Regularity for Compressible Euler-Maxwell Equations, 若手による流体力学の基礎方程式研究集会, 名古屋大学, 口頭, 2016 年 1 月 7 日.		
74	○小藺英雄, New a Priori Estimate of the 3D Navier-Stokes Equations and Its Application to the Liouville-Type Theorem, 九州函数方程式論セミナー九州大学, 口頭, 2016 年 1 月 15 日.		
75	○小藺英雄, Navier-Stokes Equations with External Forces in Lorentz Spaces and its Applications to the Self-Similar Solution, 北海道大学数学教室微分方程式セミナー, 北海道大学, 口頭, 2016 年 1 月 18 日.		
76	○内海晋弥, 厳密に計算可能な Lagrange-Galerkin スキームによるキャビティ問題の数値計算, 数学と現象 in 桜原湖, 桜原湖セミナーハウス, 口頭, 論文 36, 2016 年 2 月 2 日.		
77	○森直文, Mathematical Analysis for Timoshenko-Cattaneo System, 第 134 回日本数学会九州支部例会, 九州大学, 口頭, 論文 32, 2016 年 2 月 13 日.		

78	○津田和幸, 圧縮性流体方程式の時間周期問題, 第 134 回日本数学会 九州支部例会, 九州大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 2 月 13 日.		
79	○森直文, The Minimal Decay Regularity for Euler–Maxwell System, 若手のための偏微分方程式と数学解析, 福岡大学セミナーハウス, 口頭, 2016 年 2 月 19 日.		
80	S. Maryani, ○齋藤平和, On the \mathcal{R} -Boundedness of Solution Operator Families for Two-Phase Stokes Resolvent Equations, 日本数学会 2016 年度年会, 筑波大学, 口頭, 論文 26, 2016 年 3 月 18 日.		
81	○登口大, 確率項を持つ退化放物型方程式の解の存在定理, 日本数学会 2016 年度年会, 筑波大学, 口頭, 2016 年 3 月 19 日.		
82	○津田和幸, Time-Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes Equation on \mathbb{R}^2 with Antisymmetry, 日本数学会口頭, 2016 年度年会, 筑波大学, 口頭, 2016 年 3 月 16 日 – 19 日.		
83	○村田美帆, 柴田良弘, Global Well-Posedness for the Compressible Navier–Stokes Equations with Slip Boundary, 非線形解析セミナー大岡山, 東京, 口頭, 2016 年 4 月 22 日.		
84	○小澤徹, Life Span of Solutions to Nonlinear Schrödinger Equations on Torus, 偏微分方程式セミナー PDE Seminar, 北海道大学理学部 3 号館 3-309 室, 北海道・札幌市北区, 口頭, 2016 年 5 月 27 日.		
85	○加藤睦也, The Cauchy Problem for the 2D Zakharov–Kuznetsov Equation in Modulation Spaces, 名古屋微分方程式セミナー, 名古屋大学, 口頭, 論文 21, 2016 年 5 月 30 日.		
86	○小澤徹, 等式の枠組から見た不確定性関係, 微分方程式セミナー Seminar of Differential Equations, 大阪大学, 数学教室 大セミナー室 (E301), 大阪府・豊中市, 口頭, 2016 年 6 月 10 日.		
87	○加藤睦也, Frequency Uniform Decomposition Methods for the Two-Dimensional Generalized Zakharov–Kuznetsov Equation, 岐阜数理科学セミナー, 岐阜大学, 口頭, 論文 21, 2016 年 6 月 17 日.		
88	○小藺英雄, Navier–Stokes Equations with External Forces in Time-Weighted Besov Spaces, 信州大学偏微分方程式研究集会, 口頭, 2016 年 6 月 17 日.		
89	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes Equation on the Whole Space, 東北大学応用数学セミナー, 東北大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 6 月 30 日.		
90	○津田和幸, 全空間上の圧縮性 Navier–Stokes 方程式の時間周期問題, 愛媛大学解析セミナー, 愛媛大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 6 月.		
91	○榎本翔太, On Linearized Stability of Space–Time Periodic Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation in an Infinite Layer, 数学と現象 in 奥多摩, 奥多摩町福祉会館, 口頭, 2016 年 7 月 28 日 – 30 日.		

92	○小藺英雄, Navier–Stokes Equations with External Forces in Time-Weighted Besov Spaces, 熊本大学応用解析セミナー, 熊本大学, 口頭, 2016 年 7 月 30 日.		
93	○榎本翔太, Stability of Space-Time Periodic Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation, 第 38 回発展方程式若手セミナー, あうる京北, 口頭, 2016 年 8 月 28 日 – 30 日.		
94	○森直文, 温度入り非線形 Timoshenko 系の臨界空間における時間大域解の存在と減衰評価, 第 38 回発展方程式若手セミナー, あうる京北, 口頭, 論文 32, 2016 年 8 月 30 日.		
95	○榎本翔太, 圧縮性 Navier–Stokes 方程式の時空間周期解の安定性について, 明治非線型数理セミナー, 明治大学生田キャンパス, 口頭, 2016 年 8 月 31 日.		
96	○剣持智哉, 平面曲線の勾配流に対する B-spline による構造保存数値解法, 第 38 回発展方程式若手セミナー, あうる京北, 口頭, 2016 年 8 月 31 日.		
97	○内海晋弥, 野津 裕史, 田端 正久, 局所線形流速を用いた P1/P1 安定化 Lagrange–Galerkin スキーム, 日本応用数学会 2016 年度年会, 北九州国際会議場, 口頭, 2016 年 9 月 12 日.		
98	○剣持智哉, 平面曲線の勾配流に対する B-spline による構造保存数値解法, 日本応用数学会 2016 年度年会, 北九州国際会議場, 口頭, 2016 年 9 月 13 日.		
99	○村田美帆, 柴田良弘, The L_p – L_q Approach to the Navier–Stokes–Korteweg Equations, 研究集会, 第 12 回 非線型の諸問題, 山口, 口頭, 2016 年 9 月 13 日.		
100	アハットアブリズ, ○榎本翔太, 隠居良行, Large Time Behavior of Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equations in an Infinite Layer Under Slip Boundary Condition, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会, 関西大学千里山キャンパス, 口頭, 2016 年 9 月 15 日 – 18 日.		
101	○梶原直人, On a Resolvent Estimate for Bidomain Operators, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会, 関西大学, 口頭, 2016 年 9 月.		
102	○森直文, R. Racke, The Asymptotic Behavior of a Nonlinear version of the Timoshenko–Cattaneo System, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会, 関西大学, 口頭, 論文 32, 2016 年 9 月 17 日.		ドイツ
103	○剣持智哉, 齊藤宣一, 最大正則性と作用素の分数べきによる放物型方程式に対する有限要素法の誤差解析, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会 (応用数学分科会), 関西大学千里山キャンパス, 口頭, 2016 年 9 月 18 日.		
104	○齋藤平和, Global Solvability of the Navier–Stokes Equations with a Free Surface in the Maximal L_p – L_q Regularity Class, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会, 関西大学, 口頭, 論文 33, 2016 年 9 月 18 日.		
105	○柴田良弘, Free Boundary Problem for the Navier–Stokes Equations in an Exterior Domain, The Mathematical Society of Japan, Kansai University, 口頭, 2016 年 9 月 18 日.		

106	○柴田良弘, Free Boundary Problem for the Navier–Stokes Equations, The Mathematical Society of Japan, Kansai University, 口頭, 2016 年 9 月 18 日.		
107	○内海晋弥, 田端正久, Oseen 問題のための grad-div 安定化・局所線形化流速 Lagrange–Galerkin スキーム, 日本数学会 2016 年度秋季総合分科会, 関西大学, 口頭, 2016 年 9 月 18 日.		
108	○小澤徹, Critical Hardy Inequalities, 広島微分方程式研究会, Workshop on Differential Equations in Hiroshima, 広島大学理学部 B707 号室 (東広島キャンパス), 広島県・東広島市, 口頭, 2016 年 10 月 14 日 – 15 日.		
109	○内海晋弥, Oseen 問題のための有限要素スキームの粘性係数依存性に注目した誤差評価, RIMS 研究集会: 現象解明に向けた数値解析学の新展開 II, 京都大学, 口頭, 2016 年 10 月 20 日.		
110	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier–Stokes Equation on the Whole Space, 広島大学数理解析セミナー, 広島大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 11 月 11 日.		
111	○剣持智哉, 柏原崇人, 滑らかな領域における放物型問題の有限要素近似に対する L^∞ 誤差評価, 2016 年度応用数学合同研究集会, 龍谷大学瀬田キャンパス, 口頭, 2016 年 12 月 16 日.		
112	○剣持智哉, 偏微分方程式に対する有限要素法における諸問題, 研究集会, 数学と諸科学の融合 2016, 早稲田大学早稲田キャンパス, 口頭, 2016 年 12 月 19 日.		
113	○津田和幸, Existence and Stability of Time Periodic Solution to the Compressible Navier–Stokes Equation, 第六回弘前非線形方程式研究会, 弘前大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 12 月 23 日		
114	○榎本翔太, Large Time Behavior of Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation Around Space–Time Periodic State, 第 42 回発展方程式研究会, 日本女子大学目白キャンパス, 口頭, 2016 年 12 月 25 日 – 27 日.		
115	○登口大, 確率保存則方程式に対する初期値・境界値問題の適切性, 第 42 回 発展方程式研究会, 日本女子大学, 口頭, 2016 年 12 月 26 日.		
116	○津田和幸, 全空間上の圧縮性 Navier–Stokes 方程式の時間周期問題について, 第 6 回室蘭非線形解析研究会, 室蘭工業大学, 口頭, 論文 11, 2016 年 11 月 25 日 – 26 日.		
117	○村田美帆, 柴田良弘, Navier–Stokes–Korteweg System in \mathbb{R}^N , 若手による流体力学の基礎方程式研究集会, 愛知, 口頭, 2017 年 1 月 10 日.		
118	○榎本翔太, Large Time Behavior of Solutions to the Compressible Navier–Stokes Equation Around Space–Time Periodic States, 熊本大学応用解析セミナー, 熊本大学黒髪南キャンパス, 口頭, 2017 年 1 月 28 日.		
119	○剣持智哉, Julia による発展方程式の数値計算と可視化, 非線形現象と高精度高品質数値解析, 富山大学人間発達科学部, 口頭, 2017 年 2 月 13 日.		

120	○ 剣持智哉, 平面曲線に対する勾配流方程式の数値計算, 不連続 Galerkin 有限要素法の数学理論とその周辺, コンフォートホテル長崎, 長崎県, 口頭, 2018 年 2 月 13 日.		
121	○ 剣持智哉, 放物型方程式に対する有限要素法の L^∞ 解析について, 不連続 Galerkin 有限要素法の数学理論とその周辺, コンフォートホテル長崎, 長崎県, 口頭, 2018 年 2 月 13 日.		
122	○ 仲尾光平, 谷内靖, 3次元の領域における Navier-Stokes 方程式の Beale-Kato-Majda 型の解の接続定理, 日本数学会 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 18 日 - 21 日.		
123	○ 小澤徹, Remarks on Hardy Inequalities in $L^p(\mathbb{R}^n)$, 第 9 回名古屋微分方程式研究集会, 名古屋大学, 愛知県・名古屋市, 口頭, 2017 年 3 月 21 日 - 22 日.		
124	○ 内海晋弥, 局所線形化流速を用いた Lagrange-Galerkin スキームと高レイノルズ数問題へ向けた応用, 数値解析の理論と実践, 石川県政記念しいのき迎賓館, 口頭, 論文 35, 2017 年 3 月 21 日.		
125	○ 榎本翔太, 隠居良行, モハマドアズラン, Stability of Space-Time Periodic States to the Compressible Navier-Stokes Equation in an Infinite Layer, 日本数学会 2017 年度年会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 口頭, 2017 年 3 月 24 日 - 27 日.		
126	○ 齋藤平和, Compressible Fluid Model of Korteweg Type with Free Boundary Condition: Model Problem, 日本数学会 2017 年度年会, 首都大学東京, 口頭, 論文 38, 2017 年 3 月 26 日.		
127	○ 登口大, 確率保存則方程式に対する非斉次 Dirichlet 問題の適切性, 日本数学会 2017 年度年会, 首都大学東京, 口頭, 2017 年 3 月 27 日.		
128	○ 小澤徹, 数理物理学に於ける Co-Presence, Co-Presence 研究会, 東京大学, 千葉県・柏市, 口頭, 2017 年 3 月 27 日 - 29 日.		
129	○ 柴田良弘, On L_p - L_q Decay Estimate for Stokes Equations with Free Boundary Condition in an Exterior Domain, The Mathematical Society of Japan, 口頭, 2017 年 3 月 27 日.		
130	○ 柴田良弘, Global Well-Posedness for the Free Boundary Problem of the Navier-Stokes Equations in an Exterior Domain, 日本数学会(The Mathematical Society of Japan), 首都大学, 東京, 口頭, 2017 年 3 月 27 日.		
131	○ 加藤睦也, The Global Cauchy Problem for the Generalized Zakharov-Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, 第 4 回調和解析中央大セミナー, 中央大学, 口頭, 論文 21, 2017 年 4 月 8 日.		
132	○ 榎本翔太, Slip 境界条件における圧縮性 Navier-Stokes 方程式の解の安定性について, 明治非線型数理セミナー, 明治大学中野キャンパス, 口頭, 2017 年 4 月 11 日.		

133	○内海晋弥, Lagrange-Galerkin 法における諸問題とその解決策: 計算可能性・粘性係数依存性・流入境界条件, 数値解析セミナー (UTNAS), 東京大学大学院数理科学研究科, 口頭, 論文 35・36, 2017 年 4 月 11 日.		
134	○加藤睦也, Well-Posedness for the Generalized Zakharov--Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, 微分方程式セミナー, 大阪大学, 口頭, 論文 21, 2017 年 4 月 14 日.		
135	○剣持智哉, 有限要素法の誤差解析, 張研コロキウム, 名古屋大学工学部, 愛知県, 口頭, 2017 年 5 月 17 日.		
136	○榎本翔太, 圧縮性 Navier-Stokes 方程式の時空間周期解の安定性について, 第 148 回 神楽坂解析セミナー, 東京理科大学神楽坂キャンパス, 口頭, 2017 年 5 月 27 日.		
137	○内海晋弥, 高次要素を用いた圧力安定化 Lagrange-Galerkin スキームによる高レイノルズ数流れ問題の数値計算, 第 22 回計算工学講演会, ソニックシティー, 口頭, 2017 年 6 月 1 日.		
138	○小藺英雄, Strong Solutions of the Navier-Stokes Equations Based on the Maximal Lorentz Regularity Theorem in Besov Spaces, 北海道大学数学教室談話会, 北海道大学, 口頭, 2017 年 6 月 2 日.		
139	○梶原直人, 放物型発展方程式の立場から見るバイドメイン方程式について, 2017 年度 第 6 回明治非線形数理セミナー, 明治大学, 口頭, 2017 年 6 月 6 日.		
140	○村田美帆, 柴田良弘, Navier-Stokes-Korteweg System に対する時間大域解の一意存在性について, 第 6-7 回明治非線形数理セミナー, 東京都, 口頭, 2017 年 6 月 6 日.		
141	○剣持智哉, 平面曲線の勾配流に対する構造保存数値解法, 東京大学情報理工学系研究科 3 研輪講, 東京大学情報理工学系研究科, 東京都, 口頭, 2017 年 6 月 7 日.		
142	○加藤睦也, The Cauchy Problem for the Generalized 3D Zakharov--Kuznetsov Equation on Modulation Spaces, 信州大学偏微分方程式研究集会, 信州大学, 口頭, 論文 21, 2017 年 6 月 16 日 - 17 日.		
143	○内海晋弥, 局所線形化流速を用いる Lagrange-Galerkin スキームとその実装法, 芝浦工業大学システム理工学部数理科学科談話会, 芝浦工業大学大宮キャンパス, 口頭, 論文 18・35・36, 2017 年 6 月 21 日.		
144	○寺本有花, Bifurcation of Taylor Vortex for Compressible Navier-Stokes Equations, 第 214 回広島数理解析セミナー, 口頭, 2017 年 6 月 23 日.		
145	○小藺英雄, Liouville Type Theorem for the Navier-Stokes Equations, 非線形科学コロキウム, 早稲田大学理工学術院, 口頭, 2017 年 6 月 29 日.		
146	○津田和幸, Time Periodic Problem for the Compressible Navier-Stokes Equation on the Two Dimensional Case with Antisymmetry, 京都大学 NLPDE セミナー, 京都大学, 口頭, 2017 年 7 月 21 日.		
147	○寺本有花, Bifurcation of Taylor Vortex for Compressible Navier-Stokes Equations, 半田山微分方程式セミナー, 口頭, 2017 年 8 月 4 日.		

148	○榎本翔太, 層状領域における圧縮性 Navier-Stokes 方程式の時空間周期解の安定性, 第 6 回岐阜数理科学研究会, 岐阜大学サテライトキャンパス, 口頭, 2017 年 8 月 10 日 - 11 日.		
149	○津田和幸, 全空間上の圧縮性 Navier-Stokes 方程式の時間周期問題について, 第 6 回岐阜数理科学研究会, 岐阜大学, 口頭, 論文 11, 2017 年 8 月 10 日 - 11 日.		
150	○小藺英雄, Stationary Solution to the Navier-Stokes Equations in the Scaling Invariant Besov Space and its Regularity, 第 6 回岐阜数理科学研究会, 岐阜大学サテライトキャンパス, 口頭, 2017 年 8 月 10 日.		
151	○内海晋弥, 高次要素を用いる圧力安定化 Lagrange-Galerkin スキームによる流れ問題の有限要素計算, 第 6 回岐阜数理科学研究会, 岐阜大学サテライトキャンパス, 口頭, 2017 年 8 月 11 日.		
152	○加藤睦也, Pseudo-Differential Operators with Symbols in the Hörmander Class $S^0_{\alpha, \alpha}$ on α -Modulation Spaces, 2017 年度偏微分方程式集中セミナー, 大阪大学, 口頭, 2017 年 8 月.		
153	○梶原直人, 最大正則性理論を用いた Wentzell 境界条件をもつ Cahn-Hilliard 方程式の大域可解性, 第 39 回発展方程式若手セミナー, 愛知県西尾市グリーンホテル三ヶ根, 口頭, 2017 年 9 月 3 日.		
154	○仲尾光平, 3 次元の領域における Navier-Stokes 方程式の Serrin 型の解の接続定理, 第 39 回発展方程式若手セミナー, グリーンホテル三ヶ根, 口頭, 2017 年 9 月 3 日 - 6 日.		
155	○寺本有花, Bifurcation of the Compressible Taylor Vortex, 第 39 回発展方程式若手セミナー, 口頭, 2017 年 9 月 3 日 - 6 日.		
156	○剣持智哉, Allen-Cahn 方程式に対する数値解の漸近挙動, 日本応用数理学会 2017 年度年会, 武蔵野大学有明キャンパス, 東京都, 口頭, 2017 年 9 月 8 日.		
157	○寺本有花, Bifurcation of the Compressible Taylor Vortex, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会, 口頭, 2017 年 9 月 11 日 - 14 日.		
158	○鶴見裕之, Extension Criterion via Partial Components of Vorticity on Strong Solutions to the Navier-Stokes Equations in Higher Dimensions, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会, 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 11 日 - 14 日.		
159	○剣持智哉, 放物型方程式に対する有限要素法の時間について一様な誤差評価, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会 (応用数学分科会), 山形大学小白川キャンパス, 山形県, 口頭, 2017 年 9 月 13 日.		
160	○熊谷大雅, Asymptotics of the Solutions of Hamilton-Jacobi Equations with Large Drift Term, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会, 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 13 日.		
161	○梶原直人, 最大正則性理論を用いた Phase-Field Navier-Stokes 方程式の可解性および定常解の安定性について, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会, 山形大学, 口頭, 論文 28, 2017 年 9 月 14 日.		

162	○齋藤平和, Maximal L_p - L_q Regularity for a Compressible Fluid Model of Korteweg Type on General Domains, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会, 山形大学, 口頭, 論文 38, 2017 年 9 月 14 日.		
163	○柴田良弘, Maximal L_p - L_q Regularity Theorem for the Linearized Electro-Magnetic Field Equations, 日本数学会 (The Mathematical Society of Japan), 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 14 日.		
164	○柴田良弘, Local Well-Posedness for the Magnetohydrodynamics in the Different Two Liquies Case, 日本数学会 (The Mathematical Society of Japan), 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 14 日.		
165	○柴田良弘, Local Well-Posedness for the Two Components Flow, 日本数学会 (The Mathematical Society of Japan), 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 14 日.		
166	○柴田良弘, Global Well-Posedness for the Two Components Flow, 日本数学会 (The Mathematical Society of Japan), 山形大学, 口頭, 2017 年 9 月 14 日.		
167	○渡邊圭市, Compressible-Incompressible Two Phase Flow of Korteweg Type with Phase Transition: Model Problem, 日本数学会 2017 年度秋季総合分科会 (関数方程式論分科会), 山形大学, 口頭, 論文 39, 2017 年 9 月 14 日.		
168	○登口大, On a Time-Splitting Method for Stochastic Scalar Conservation Laws with the Initial-Boundary Condition, 発展方程式の理論と非線形現象の数学解析, 京都大学数理解析研究所, 口頭, 2017 年 10 月 19 日.		
169	○小藺英雄, Stationary Solution to the Navier-Stokes Equations in the Scaling Invariant Besov Space and its Regularity, 大岡山解析セミナー, 東京工業大学, 口頭, 2017 年 10 月 20 日.		
170	○小藺英雄, Method of Besov Spaces and the Navier-Stokes Equations, 数学教室談話会, 大阪市立大学, 口頭, 2017 年 10 月 25 日.		
171	○剣持智哉, Allen-Cahn 方程式の数値解に対する漸近的な誤差解析, RIMS 研究集会, 数値解析学の最前線 ---理論・方法・応用---, 京都大学数理解析研究所, 京都府, 口頭, 2017 年 11 月 9 日.		
172	○内海晋弥, 高次要素を用いる圧力安定化有限要素法の解析と高レイノルズ数流れ問題への応用, RIMS 共同研究 (公開型) 数値解析学の最前線 ---理論・方法・応用---, 京都大学, 口頭, 2017 年 11 月 9 日.		
173	○加藤睦也, Pseudo-Differential Operators with Symbols in the Hörmander Class on α -Modulation Spaces, 実解析学シンポジウム 2017, 名古屋大学, 口頭, 2017 年 11 月 10 日 - 12 日.		
174	○剣持智哉, 発展方程式に対する不連続 Galerkin 法による時間離散化について, 応用数学フレッシュマンセミナー, 京都大学理学部数学教室, 京都府, 口頭, 2017 年 11 月 11 日.		
175	○檜垣充朗, 高速回転する円板の周りの 2 次元ナビエ-ストークス流について, 明治非線型数理セミナー, 明治大学, 口頭, 2017 年 11 月 21 日.		

176	○小藺英雄, Harmonic Vector Fields in L^r on 3D Exterior Domains, 解析セミナー, 金沢大学, 口頭, 2017 年 11 月 24 日.		
177	○内海晋弥, 圧力安定化有限要素法による流体問題の数値計算と誤差解析, 数理人セミナー, 早稲田大学西早稲田キャンパス, 口頭, 2017 年 12 月 8 日.		
178	○剣持智哉, DG time-stepping 法に対する半群論的なアプローチ, 2017 年度応用数学合同研究集会, 龍谷大学瀬田キャンパス, 滋賀県, 口頭, 2017 年 12 月 15 日.		
179	○内海晋弥, 高次要素を用いる圧力安定化有限要素法による高レイノルズ数流れ問題の数値計算, 2017 年度応用数学合同研究集会, 龍谷大学瀬田キャンパス, 口頭, 2017 年 12 月 16 日.		
180	木野仁, 清田哲広, 宮元展義, 稲富巧, 加藤友規, 藤岡寛之, ○森直文, 田原健二, ナノシート液晶を用いたゲルアクチュエータの応答特性の基礎評価, 第 18 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 仙台国際センター, 口頭, 2017 年 12 月 20 日.		
181	木野仁, 酒田昂典, 植村充典, ○森直文, 村上浩太郎, 股関節に可変剛性機構を有する受動歩行システムに用いる関節速度パターンの考察, 第 18 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 仙台国際センター, 口頭, 2017 年 12 月.		
182	○寺本有花, Bifurcation of the Compressible Taylor Vortex, 第 43 回発展方程式研究会, 2017 年 12 月 25 日 - 27 日.		
183	○梶原直人, Time Periodic Solutions to the Bidomain Equations Subject to Arbitrary Large Forces, 第 43 回発展方程式研究会, 日本女子大学, 口頭, 2017 年 12 月 26 日.		
184	○渡邊圭市, Maximal L^p - L^q Regularity of Compressible-Incompressible Two-Phase Flows with Phase Transitions in General Domains, 第 43 回発展方程式論分科会, 日本女子大学, 口頭, 2017 年 12 月 27 日.		
185	○鶴見裕之, Ill-Posedness of the Stationary Navier-Stokes Equations in Homogeneous Besov Spaces, 若手による流体力学の基礎方程式研究集会, 名古屋大学, 口頭, 2018 年 1 月 5 日 - 6 日.		
186	○齋藤平和, Maximal Regularity for a Compressible Fluid Model of Korteweg Type and Its Application, 若手による流体力学の基礎方程式の研究集会, 名古屋大学, 口頭, 論文 38, 2018 年 1 月 6 日.		
187	○寺本有花, On the Spectrum of Linear Artificial Compressible System, 第 9 回白浜研究集会, 口頭, 2018 年 1 月 15 日 - 18 日.		
188	○小藺英雄, L^r -Harmonic Vector Fields in 3D Exterior Domains, 九州関数方程式セミナー, 九州大学・福岡大学, 口頭, 2018 年 1 月 26 日.		
189	○加藤睦也, Nonlinear Operations on Modulation Spaces, 松山解析セミナー2018, 愛媛大学, 口頭, 2018 年 2 月 2 日 - 3 日.		
190	○剣持智哉, 平面曲線の勾配流に対する構造保存的な数値解法, 数学と現象 in 清里, 明治大学清里セミナーハウス, 山梨県, 口頭, 2018 年 2 月 4 日.		

191	○鶴見裕之, Solutions of the Stationary Navier–Stokes Equations in Homogeneous Besov and Triebel–Lizorkin Spaces, RIMS 共同研究(公開型), 関数空間の深化とその周辺, 京都大学, 口頭, 2018 年 2 月 5 日 – 8 日.		
192	○鶴見裕之, Solutions of the Stationary Navier–Stokes Equations in Homogeneous Besov and Triebel–Lizorkin Spaces, 研究集会, 若手のための偏微分方程式と数学解析, 福岡大学セミナーハウス, 口頭, 2018 年 2 月 15 日 – 16 日.		
193	○梶原直人, Time Periodic Solutions to the Bidomain Equations, 若手のための偏微分方程式と数学解析, 福岡大学セミナーハウス, 口頭, 2018 年 2 月 16 日.		
194	○小藺英雄, Finite Energy for the Navier–Stokes Equations and Liouville–Type Theorems, 第 19 回北東数学解析研究会, 北海道大学, 口頭, 2018 年 2 月 20 日.		
195	○檜垣充朗, 非圧縮性粘性流体に対するナビエ壁法則について, 奈良女子大学 P D E セミナー, 奈良女子大学, 口頭, 2018 年 2 月.		
196	○柴田良弘, Free Boundary Problem for Incompressible Viscous Fluid Flows with Surface Tension, 第 10 回名古屋微分方程式研究集会, 10th Nagoya Conference on Differential Equations, 名古屋大学多元数理科学棟 509 号室, 口頭, 2018 年 3 月 15 日 – 16 日.		
197	小林孝行, ○津田和幸, Time Decay Estimate with Diffusive Property and Smoothing Effect for Solution to the Compressible Navier–Stokes–Korteweg System, 日本数学会口頭, 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 18 日 – 21 日.		
198	○鶴見裕之, Solutions of the Stationary Navier–Stokes Equations in Homogeneous Triebel–Lizorkin Spaces, 日本数学会 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 18 日 – 21 日.		
199	○鶴見裕之, Ill-Posedness of the Stationary Navier–Stokes Equations in homogeneous Besov Spaces, 日本数学会 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 18 日 – 21 日.		
200	○梶原直人, M. Hieber, K. Kress, P. Tolksdorf, Time Periodic Solutions on Real Interpolation Spaces and Its Applications to Some Electrophysiological Models, 日本数学会 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 19 日.		
201	○梶原直人, 儀我美一, K. Kress, Time Periodic Solutions to the Bidomain Equations Subject to Arbitrary Large Forces, 日本数学会 2018 年度年会, 東京大学, 口頭, 2018 年 3 月 19 日.		
202	○剣持智哉, DG Time–Stepping 法に対する解析半群論的なアプローチ, 日本数学会 2018 年度年会 (応用数学科分會), 東京大学駒場キャンパス, 東京, 口頭, 2018 年 3 月 20 日.		
203	○柴田良弘, Global Well–Posedness for a Q tensor Model of Incompressible Nematic Liquid Crystals in \mathbb{R}^n , The Mathematical Society of Japan, Tokyo University, 口頭, 2018 年 3 月 21 日.		

204	○柴田良弘, Free Boundary Problem for the Navier–Stokes Equations with Surface Tension, The Mathematical Society of Japan, Tokyo University, 口頭, 2018 年 3 月 21 日.		
205	○渡邊圭市, Maximal Regularity of Compressible–Incompressible Two-Phase Flows with Phase Transitions, 日本数学会 2018 年度年会 (関数方程式論分科会), 東京大学, 3 月 21 日.		
206	○加藤睦也, Nonlinear Operations on Modulation Spaces, 調和解析セミナー, 日本大学, 口頭, 2018 年 3 月.		
207	○津田和幸, 圧縮性 Navier–Stokes–Korteweg 方程式の解の時間減衰評価について, 第 43 回南大阪応用数学セミナー, 大阪市立大学, 2018 年 5 月 26 日.		

④図書

整理番号	著者名、著書名、出版社名、刊行年月日等	相手国名(共著の場合)
1	(Editors) H. Amann, Y. Giga, H. Kozono, H. Okamoto, M. Yamazaki, Recent Developments of Mathematical Fluid Mechanics, Birkhäuser Basel (2016), IX+482pp. DOI 10.1007/978-3-0348-0939-9	ドイツ・スイス・フランス・イタリア・チェコ等

(3) 共同セミナー

1	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム 新規発信研究集会	
	開催期間	平成 26 年 6 月 17 日～平成 26 年 6 月 18 日(2 日間)	
	開催場所	早稲田大学	
	参加者数	日本側	合計 63 名(教員等 9 名、大学院学生 9 名)
		ドイツ側	合計 2 名(教員等 2 名、大学院学生 0 名)
2	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム 第10回 流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 26 年 10 月 27 日～平成 26 年 10 月 30 日(4 日間)	
	開催場所	Bad Böll, Germany	
	参加者数	日本側	合計 18 名(教員等 3 名、大学院学生 3 名)
		ドイツ側	合計 46 名(教員等 5 名、大学院学生 7 名)
3	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム 第11回 流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 27 年 3 月 10 日～平成 27 年 3 月 13 日(4 日間)	
	開催場所	早稲田大学	
	参加者数	日本側	合計 67 名(教員等 11 名、大学院学生 11 名)
		ドイツ側	合計 16 名(教員等 5 名、大学院学生 8 名)
4	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム Stochastic Analysis of Spatially Extended Models	
	開催期間	平成 27 年 3 月 23 日～平成 27 年 3 月 27 日(5 日間)	
	開催場所	ダルムシュタット工科大学	
	参加者数	日本側	合計 2 名(教員等 0 名、大学院学生 1 名)
		ドイツ側	合計 34 名(教員等 1 名、大学院学生 1 名)

5	セミナー名	ドイツ研究振興協会重点研究領域プログラム「流動界面における輸送課程」および日本学術振興会日独共同大学院プログラム「流体数学」合同国際研究集会および秋の学校	
	開催期間	平成 27 年 10 月 5 日～平成 27 年 10 月 8 日(4 日間)	
	開催場所	ダルムシュタット工科大学	
	参加者数	日本側	合計 8 名(教員等 4 名、大学院学生 1 名)
		ドイツ側	合計 78 名(教員等 4 名、大学院学生 6 名)
6	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム 第12回 流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 28 年 3 月 1 日～平成 28 年 3 月 4 日(4 日間)	
	開催場所	早稲田大学	
	参加者数	日本側	合計 55 名(教員等 11 名、大学院学生 6 名)
		ドイツ側	合計 18 名(教員等 6 名、大学院学生 8 名)
7	セミナー名	日本学術振興会・ドイツ研究振興協会 第 13 回日独流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 28 年 11 月 30 日～平成 28 年 12 月 2 日(3 日間)	
	開催場所	ダルムシュタット工科大学	
	参加者数	日本側	合計 15 名(教員等 4 名、大学院学生 6 名)
		ドイツ側	合計 51 名(教員等 7 名、大学院学生 7 名)
8	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会 日独共同大学院プログラム 第 14 回日独流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 29 年 3 月 8 日～平成 29 年 3 月 10 日(3 日間)	
	開催場所	早稲田大学	
	参加者数	日本側	合計 59 名(教員等 8 名、大学院学生 7 名)
		ドイツ側	合計 17 名(教員等 6 名、大学院学生 6 名)
9	セミナー名	独立行政法人日本学術振興会日独共同大学院プログラム 第15回 日独流体数学国際研究集会	
	開催期間	平成 30 年 1 月 9 日～平成 30 年 1 月 12 日(4 日間)	
	開催場所	早稲田大学	
	参加者数	日本側	合計 62 名(教員等 8 名、大学院学生 8 名)
		ドイツ側	合計 14 名(教員等 4 名、大学院学生 6 名)

※ 記入欄が足りない場合には、適宜枠を追加して記入してください。

(4) 派遣・受入実績

本事業で経費を負担した派遣及び受入の人数を記入してください。

(名)

	派遣数(日本→ドイツ)			受入数(ドイツ→日本)		
	教員等	大学院学生	合計	教員等	大学院学生	合計
平成 24 年度						
平成 25 年度						
平成 26 年度	6	8	14	8	10	18
平成 27 年度	7	7	14	6	8	14
平成 28 年度	9	9	18	8	6	14
平成 29 年度	6	8	14	7	9	16